

平成 16 年度(2004 年)
事業報告書

財団法人 日本テニス協会

平成16年度 主要会議報告

平成16年

4月16日(金) 第1回	常務理事・本部長会議	東京体育館内第三研修室
5月11日(火) 第2回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
5月28日(金) 第1回	理事会	岸記念体育会館5階会議室
5月28日(金) 第1回	評議員会	岸記念体育会館地下講堂
6月25日(金) 第3回	常務理事・本部長会議	ルーテル市ヶ谷センター第一会議室
7月15日(木) 第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
8月26日(木) 第5回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
9月16日(木) 第6回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
10月22日(金) 第7回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
11月16日(火) 第8回	常務理事・本部長会議	有明コロシアム2階インテリェールム
12月7日(火) 第9回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室

平成17年

1月12日(水) 第10回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
2月3日(木) 第11回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
3月16日(火) 第12回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
3月30日(水) 第2回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
3月30日(金) 第2回	評議員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

平成16年度 表彰伝達式 受賞者一覧

功労賞

日本テニス協会 : 木坂孝治
関東テニス協会 : 金子千春 ・ 金澤博子 ・ 花木内教雄
 : 橋爪功 ・ 須田一 ・ 直井啓吾
東海テニス協会 : 松本康夫 ・ 熊野徹造 ・ 星屋進博
関西テニス協会 : 下川淳 ・ 曾我良夫 ・ 宮内正博
 : 須天正和
中国テニス協会 : 河野博之
九州テニス協会 : 小野治嗣 ・ 神原武 ・ 境田榮吾

企業賞

日本テニス協会 : アメアスポーツジャパン株式会社 ・ SRI ハイブリッド株式会社
 : ミズノ株式会社 ・ 株式会社ナイキジャパン
 : 鐘屋産業株式会社 ・ 株式会社寺西喜商店
 : 松本製網株式会社 ・ 有限会社ミセキネット製作所
 : 株式会社ルイ高 ・ 株式会社ゴーセン
 : 東亜ストリング株式会社 ・ SRI スポーツ株式会社
 : ヨネックス株式会社 ・ ヒットユニオン株式会社
 : 株式会社アシックス
国際大会委員会 : 草津ナウリゾートホテル

優秀団体賞

日本テニス協会 : 柳川高等学校

優秀選手賞

強化委員会 : 浅越しのぶ

ジュニア大賞

ジュニア委員会 : 森田あゆみ

優秀指導者賞

ジュニア委員会 : 丸山淳一

クラブ賞

関西テニス協会 : 靱テニスセンター

メディア賞

広報委員会 : 読売新聞社

平成17年度 オリジナルコーチ受賞者一覧

山室智明 コーチ (選手: 杉田祐一)
竹内博 コーチ (選手: 鈴木昂)
岡田隆之 コーチ (選手: 瀬間詠里花)

財団法人日本テニス協会 平成16年度 事業報告書

自平成16年4月1日 至平成17年3月31日

1. テニスの普及及び指導

- (1) 全日本テニス選手権大会キッズジュニアクリニックの開催【選手委員会】
- (2) 各種大会への誘客イベントの実施【プロモーション委員会】
- (3) 「テニスの日」イベントの実施【普及委員会】
- (4) キッズテニスの積極的な普及【普及委員会】
- (5) 公的施設利用拡大の推進（プロモーション委員会と共同）【普及委員会】
- (6) 中学校テニス活動に対する支援（プロモーション委員会と共同）【普及委員会】
- (7) 「シニアブームを本気で興す」プロジェクトに参加【普及委員会】

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

- (1) 国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理【国内大会委員会】
- (2) 第19回テニス日本リーグ【実業団委員会】
- (3) 第18回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)【実業団委員会】
- (4) 第43回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)【実業団委員会】
- (5) 第59回国民体育大会テニス競技の運営【国体委員会】
- (7) 第28回全日本都市対抗テニス大会【国体委員会】
- (8) 各種国際大会の主催ならびに後援・公認【国際大会委員会】
- (9) 各種大会へのレフェリー・審判員の派遣【審判委員会】
- (10) 第66回全日本ベテランテニス選手権大会の開催【ベテラン委員会】
- (11) 第28回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力【ベテラン委員会】
- (12) 47都道府県協会主催のベテランJOPF大会の推進と運営協力【ベテラン委員会】
- (13) 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力【ベテラン委員会】

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

- (1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達。
【国際委員会】
- (2) 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘
- (3) 国際大会視察の実施【国際大会委員会】
- (4) 国際ベテラン大会への選手派遣【ベテラン委員会】
- (5) AIGジャパンオープンテニス2004の開催【ジャパンオープン委員会】
- (6) デビスカップへの参加【強化委員会】
- (7) フェドカップへの参加【強化委員会】
- (8) 第28回オリンピック競技大会(2004・アテネ)への参加【強化委員会】
- (9) ナショナルジュニア海外遠征【強化委員会】

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

- (1) 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施【審判委員会】
- (2) 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施【審判委員会】
- (3) 諸外国の審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善【審判委員会】

- (4) 審判員・レフェリーの平成16年度登録管理【審判委員会】
- (5) 文部科学大臣認定事業公認指導者資格付与【指導者委員会】
- (6) コーチーズカンファレンスの開催【指導者委員会】
- (7) 公認スポーツ指導員養成講習会の開催【指導者委員会】
- (8) 公認スポーツ指導者講師全国研修会の開催【指導者委員会】

5. テニスの競技力向上

- (1) 地域ジュニア育成合宿&強化コーチ会議【競技者指導育成推進委員】
- (2) ブロックジュニア合宿【競技者指導育成推進委員】
- (3) 日韓ジュニア対抗戦(14歳以下)【競技者指導育成推進委員】
- (4) 強化指導指針Ⅱを技術部会で策定する。(別冊を各県に配布)【競技者指導育成推進委員】
- (5) 全国講師研修会をスポーツ科学委員会・強化委員会・指導者委員会で開催する
【競技者指導育成推進委員】
- (6) デビスカップ強化合宿【強化委員会】
- (7) フェドカップ強化合宿【強化委員会】
- (8) ユニバーシアード強化合宿等【強化委員会】
- (9) ジュニア強化合宿【強化委員会】
- (10) ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施【強化委員会】
- (11) オリンピック強化指定選手の認定【強化委員会】
- (12) JTA主催全国ジュニア大会の運営協力並びにジュニア強化選手発掘・育成のための視察
【ジュニア委員会】
- (13) ジュニア世界大会予選または本戦の視察【ジュニア委員会】
- (14) 日中小学生テニス精英対抗戦大会派遣【ジュニア委員会】
- (15) 日韓テニス トップジュニアキャンプの開催【ジュニア委員会】
- (16) JTA強化指定選手のスポーツ科学的サポート【スポーツ科学委員会】
- (17) 地域ジュニア選手に対しての体力・メンタル・栄養面の現状把握とその指導
【スポーツ科学委員会】
- (18) 競技力向上のための体力トレーニング指導におけるトレーニングCDの作成
【スポーツ科学委員会】
- (19) 全豪オープン・デ杯の戦術分析【スポーツ科学委員会】
- (20) テニス選手の技能および戦術に関する研究【スポーツ科学委員会】
- (21) トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立
【スポーツ科学委員会】

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

- (1) プロフェッショナル登録基準の改正【選手委員会】
- (2) JTP・JOPランキングの作成・公表ならびに年間ランキングの作成・公表
【国内大会委員会】

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟(略称I.T.F.)及びアジアテニス連盟(略称A.T.F.)に加盟すること

- (1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達。
【国際委員会】
- (2) (財)日本体育協会国体委員会への出席【国体委員会】

- (3) (財)日本体育協会、日本スポーツマスターズ特別委員会への出席【ベテラン委員会】
- (4) (財)日本体育協会の公式会議に出席【指導者委員会】

8. 年鑑その他の刊行物の発行

- (1) JTA NEWS の発行【広報委員会】
- (2) テニスプレーヤーズガイドの発行【広報委員会】
- (3) 「コートの子」の発刊・販売ならびにルールの周知徹底【国内大会委員会】
- (4) コートの友（テニスルール・ハンドブック）の改訂作業への協力【審判委員会】

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

- (1) テニスに関する用具の認定、公認【総務委員会】

10. テニス施設の管理運営

- (1) 有明テニスの森公園コートの屋内化の可能性の調査【企画委員会】

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- (1) J T A 表彰【総務委員会】
- (2) オリジナルコーチの表彰【総務委員会】
- (3) 特別表彰【総務委員会】
- (4) 選手報奨金の授与【総務委員会】
- (5) 諸規程の新設・改定【総務委員会】
- (6) 各種イベント後援申請等の審査【総務委員会】
- (7) 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催【選手委員会】
- (8) 全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催【選手委員会】
- (9) プロフェッショナル選手の登録管理【選手委員会】
- (10) ドクター・トレーナー・講師の派遣【医事委員会】
- (11) テニス障害の対策【医事委員会】
- (12) トレーナー業務の整備【医事委員会】
- (13) 地域メディカルサポート体制の整備【医事委員会】
- (14) テニス医学情報の収集【医事委員会】
- (15) テニス障害の情報発信【医事委員会】
- (16) テニス・メディカルセミナーの CD-ROM 作成・頒布【医事委員会】
- (17) 「テニス資料館」設置の準備【テニス資料館準備室】
- (18) ホームページによる JTA 情報発信【広報委員会】
- (19) メールマガジンの発信【広報委員会】
- (20) メディアメールの発信【広報委員会】
- (21) プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行【広報委員会】
- (22) プレスルームの運営【広報委員会】
- (23) ホームクラブ制度の発足と運用【プロモーション委員会】
- (24) テニスサービス協会の具現化【プロモーション委員会】
- (25) テニス人口増大の方向の中で協会諸活動を円滑に行うための I T 化推進策立案【I T 企画委員会】
- (26) リアルタイムスコアボードシステム【I T 企画委員会】
- (27) 国体委員会の開催【国体委員会】
- (28) アマチュア選手の登録管理【選手登録委員会】

- (29) トーナメント改革の実施【国際大会委員会】
- (30) 国際大会ディレクター会議の開催【国際大会委員会】
- (31) クラブ JTA 会員の登録管理および会員の増強【クラブ J T A 推進委員会】
- (32) ジュニア委員会の制度の見直しと設定【ジュニア委員会】
- (33) ドーピング検査の実施【ドーピングコントロール委員会】
- (34) アンチ・ドーピング対策【ドーピングコントロール委員会】
- (35) アンチ・ドーピングの啓蒙【ドーピングコントロール委員会】
- (36) JADA 規程受諾【ドーピング判定委員会】
- (37) ドーピング検査陽性反応者発生時の対応【ドーピング判定委員会】
- (38) 有事における危機管理対策の実施【危機管理委員会】
- (39) JTA 各専門委員会活動

平成16年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、選手委員会、医事委員会、国際委員会、テニス資料館準備室、広報委員会、プロモーション委員会、I T 企画委員会、企画委員会、国内大会委員会、実業団委員会、国体委員会、選手登録委員会、審判委員会、国際大会委員会、ベテラン委員会、ジャパンオープン委員会、普及委員会、指導者委員会、クラブ J T A 推進委員会、競技者指導育成推進委員会、強化委員会、ジュニア委員会、スポーツ科学委員会、ドーピングコントロール委員会、ドーピング判定委員会、危機管理委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成16年度 事業報告書

自平成16年4月1日 至平成17年3月31日〔委員会別報告〕

総務本部 総務委員会（委員長：橋口 健蔵）

1. テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認・推薦申請（合計49社）を処理した。

- ① 公認：ボール7社9球
- ② 推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、インソール 計42社

2. JTA表彰

表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。

功労賞17名、企業賞10社、優秀団体賞1校、優秀選手賞1名、ジュニア大賞1名、優秀指導者賞1名、メディア賞1社に対しては、平成16年5月28日（金）岸記念体育会館「ランドマーク」において伝達式を行った。

3. オリジナルコーチの表彰

ジュニア育成・普及コーチ奨励金制度に基づき表彰を行った。

11名に対しては、平成16年5月28日（金）岸記念体育会館「ランドマーク」において表彰式を行った。

4. 特別表彰

表彰規程に基づき特別表彰としてアテネパラリンピック車いすテニスダブルス種目で優勝、金メダルを獲得した2名に対し、平成16年11月21日（日）全日本テニス選手権大会の会場にて表彰を行った。

5. 選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

女子5名に対しては、平成16年11月15日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル 3階アイリスにて報奨金の授与を行った。

6. 諸規程の新設・改定

諸規程の新設ならびに改定を、平成16年度中に合計14件行った。

7. 各種イベント後援申請等の審査

加西市テニス協会から「加西アオノベテランオープンテニス」の推奨申請をはじめとして、年間10イベントの後援、公認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

総務本部 選手委員会（委員長：右近 憲三）

1. 全日本テニス選手権大会キッズジュニアクリニックの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成16年11月21日（日）、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催した。昨年に引続きNTTドコモ社会環境室ならびにテニス部の協力を頂いた。参加者は189名。内訳は、A（小学生／未経験者）33名、B（中学生／未経験者）3名、C（小学生／楽しむ程度経験者）84名、D（中学生／楽しむ程度経験者）5名、E（小学生／試合経験者）51名、F・G（中学生／試合経験者）13名。JTAホームページやJTAメルマガによって知ったという参加者が多かった。

2. 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成16年11月15日（月）ウェルカムパーティー終了後、東京ベイ有明ワシントンホテルにて開催した。選手は男子36名・女子22名が出席し、盛田会長、渡邊専務理事、本井トーナメント本部長、坂井強化本部長、右近選手委員長、中西レフェリーが列席した。選手からも活発な意見や質問が多く飛び出し、短時間ではあったが選手とのコミュニケーションを図る場となった。普段減多に聞けない選手の考えを聞くことのできる貴重な機会であった。

3. 全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成16年11月20日(土)～21日(日)、選手から集めたグッズによるチャリティーオークションを行った。オークションは大盛況で、売上金を将来のテニス界を担うジュニア強化に寄付した。また、そのうち一部を「新潟県中越地震義援金」にも寄付した。大会期間中に募金箱にて集めた義援金に加え、11/25付けでNHKを通じて送金した。

4. プロフェッショナル選手の登録管理

- (1)プロフェッショナル登録レベル分け、登録証の発行、新規プロフェッショナルの承認
平成16年度プロフェッショナル登録者…224名(平成17年3月31日付登録料納入者)
内、新規登録者……26名

平成16年度プロフェッショナル登録料<合計> 224名 1,235,000円
10,000円×23名=230,000円、5,000円×201名=1,005,000円

レベル	I	I T P	II	II T P	III	III T P	IV	合計
男子	18	30	8	25	16	18	36	151
女子	15	30	2	17	1	5	3	73
合計	33	60	10	42	17	23	39	224

- (2)アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認
平成16年度アマチュア復帰者…2名

5. プロフェッショナル登録基準の改正

以前より懸案だったプロフェッショナル登録基準の改正を行った。

【新プロフェッショナル登録基準】

プロフェッショナルとしてとして登録する者は、本協会の規程を遵守し、常に心技体の向上に努力し、競技者としての誇りと責任感を持ち、他の競技者の模範となるように努めなければならない。

1. トーナメントプロフェッショナルプレーヤー

(1) シングルス JOP ランキング 100位以上

(2) ダブルス JOP ランキング 50位以上

のいずれかにあてはまる競技者

2. レジスタードプレーヤー(実質はプロ、賞金は受け取れる)

JOP ランキングシングルス 101位以下、ダブルス 51位以下もしくは JOP ランキングシングルス、ダブルス保持者でテニスを職業としている競技者。

但し、JOP ランキングがシングルス 100位、ダブルス 50位内に入った月に本人の申請によってトーナメントプロフェッショナルプレーヤーへ移行できる。(手数料 1000円)

外国人が登録をする際は、就労ビザを持ち外国人登録証の登録をし、それぞれのコピーと申請書を一緒に提出する。

なお、選手委員会にて推薦し常務理事会で認めた者については、上記にとらわれないものとする。

付則 本登録基準は、平成3年5月29日より施行する。

2. 平成12年3月16日改正 3. 平成17年3月1日改正

総務本部 医事委員会(委員長:別府 諸兄)

1. ドクター・トレーナー・講師の派遣

- (1)国際大会・全国大会・指導者講習会等への派遣

①デ杯対インド戦(平成16年4月9日～11日)(大阪 靱テニスセンター)については、直前合宿時4月5日(月)から11日(日)の間山下トレーナーを派遣すると共に、4月6日(火)に赤池 Dr 吉崎 Dr によるメディカルチェックを実施した。4月8日(木)から11日(日)迄はチームドクターとして奥平 Dr が常駐し、最終日11日には、赤池 Dr 吉崎 Dr も派遣、会場ドクターも担当した。また、大阪厚生年金病院へ救急対応の依頼

をした。

②フェド杯・ワールドグループ1回戦・対アルゼンチン戦（合宿・平成16年4月19日～23日、試合・4月24日～25日）（アルゼンチン ブエノスアイレス）については、チームオフィシャルトレーナーとして村木部会長、アシスタントトレーナーとして長田瑞絵氏を派遣すると共に、在アルゼンチン日本国大使館の宮村治男医務官に連絡し、事前の現地情報をご提供頂き、試合当日も会場に来て頂き貴重なアドバイスを頂いた。

③フェド杯・ワールドグループ プレイオフ 対ブルガリア戦（事前合宿・平成16年7月3日～9日、試合・7月10日<土>～11日<日>）（ブルガリア プロヴディフ市）については、チームオフィシャルトレーナーとして村木部会長、アシスタントトレーナーとして長田瑞絵氏を派遣した。

④デ杯・ワールドグループ プレイオフ 対チリ戦（事前合宿・平成16年9月19日から23日、試合・9月24日<金>～26日<日>）（チリ・サンティアゴ）については、チームオフィシャルトレーナーとして村木部会長を派遣すると共に、医事委員会としては初めての海外試合へのドクター帯同を行った。

しかし、合宿時からの約2週間の長期に亘り1名のドクターが担当するのは、勤務先の許可を得るのは困難であるため、赤池Drと奥平Drの2名により担当することとし、9月23日を引き継ぎ日とすることにより対応した。

また、在チリ日本国大使館には医務官が駐在していなかったが、アルゼンチンの宮村医務官がフォローして下さり、更には、宮村医務官の連絡により在チリ日本国大使館の西別府妙子派遣員からチリの現状につき、受診可能病院や・飲料水・気候等につき具体的な情報をご提供頂くと共に、大使館で作成している「サンチャゴ案内」をお送り頂いた。

なお、ドクター派遣については、事前に2名のドクターと委員会幹部の詳細な打合せを行った。この試合に於いては、衛生面・天候等落ち着いていて特に大きな問題は生じなかった。ドクターとトレーナーの連携も緊密であり、選手達との信頼関係も良く、今後の海外戦帯同の貴重な経験とノウハウを得た。

⑤デ杯・対台湾戦（国内一次合宿・平成17年2月21日～26日、国外二次合宿・2月28日～3月3日、試合・3月4日～6日）（台湾 桃園市）については、国内一次合宿に中尾トレーナーを国外二次合宿から試合の間山下トレーナーを派遣した。また、3月3日～3月6日にはチームドクターとして奥平Drを派遣した。なお、大塚製薬に対し、デ杯チームに対する飲料等の支援を要請し協力を得た。

⑥アテネオリンピックのテニス日本代表チームに、村木トレーナー部会長が帯同した。

⑦「AIG OPEN」（有明）「全日本テニス選手権大会」（有明）「世界スーパージュニアテニス選手権大会」（大阪・靱）「全日本ベテランテニス選手権大会」（名古屋）「全国中学生テニス選手権大会」（高松）「全日本ジュニアテニス選手権大会」（大阪・靱）「東レPPO」（東京体育館）「全国レディーステニス大会決勝大会」（昭島）各大会へトーナメントドクター及びトレーナーを派遣した。

また、救急対応バックアップ病院として、都内開催の3大会については、東京慈恵会医科大学に、大阪開催の2大会については大阪厚生年金病院へ、高松での中学生大会については高松市民病院へ依頼した。

なお、これら大会のドクターは、医事委員会委員・部会員のほか、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学学部、京都大学医学部、彦根市立病院、大阪大学医学部、各医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、全日本ベテラン大会と全国中学生大会については、地元の開業医、病院勤務医のご協力を得て、メディカルサポートを行った。

また、大会トレーナーのみを派遣した大会等は、「全日本学生テニス選手権大会」（昭

島)「全日本学生室内テニス選手権大会」(尼崎)「全日本学生大学対抗戦」(岐阜)「日韓テニストップジュニアキャンプ」(湘南・SSC)「全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会」(江坂)「日本電池国際女子オープン」(京都)「関東学生テニス選手権大会」(昭島)「トヨタジュニア選手権」(名古屋東山)「ジャパンオープンジュニア選手権」(名古屋東山)である。

⑧「テニス C 級コーチ・教師の講習会」

平成17年2月21日(月)の17時から2時間「テニスの外傷・障害の予防と対策」をテーマとした講習に金森常任委員を講師として派遣した。

平成17年2月23日(水)の17時から2時間「テニスの内科的疾患(アンチドーピングを含む)をテーマとした講習に堀内部会員を派遣した。

⑨「第15回 JTA コーチヤーズカンファレンス」

平成17年3月21日(月)11時半から1時間、金森常任委員を講師として派遣し「ジュニアテニス選手のスポーツ障害とその予防について」のテーマで講演した。

2. テニス障害の対策

(1)現行ドクター・トレーナーのネットワークの存在が選手間に少し知られてきたようで、トップ選手が、医事委員会委員が所属する医療機関に診療を受けに来るようになった。これは、別府委員長が月に1回国立スポーツ科学センターで診療を行っていることも影響しているものと思われる。更に活用を望みたい。

(2)「メディカルサポート小委員会」では、デ杯直前の合宿においてメディカルチェックを行い、結果を直ちに選手に知らせると共に、把握したデータをコンピュータに入力し、合宿がどこで行われても、過去のデータを活用出来るよう整備した。また、選手にデータを持たせ海外で診療を受けることになった場合活用できる体制を作った。

(3) テニス障害等に関する学会発表

「日本整形外科スポーツ医学界第30回学術集会」(2004年7月2日<金>)において次の発表を行った。

①「テニスにおける傷害・障害の現況」のテーマで奥平部会員が平成15年度に実施したテニス傷害・障害のアンケートの結果を分析のうえ過去に実施されたアンケート集計結果との対比等により、一般プレーヤーとトッププレーヤーの傷害・障害についての考察を発表した。

②「プロテニス選手の外傷,障害について」のテーマで斎藤常任委員が、プロテニス選手の現役時代から引退までのテニスによる外傷,障害の実情と予防及び治療につき、実際の診療から把握した傾向等を発表した。

③「ジュニアテニス選手のスポーツ障害とその予防について」のテーマで金森常任委員が、今年度のトップジュニア選手のトレーニング・測定合宿において、11歳から18歳までの17名を対象として全身のメディカルチェックと障害の調査を行った結果を報告すると共に、障害の一手手前の選手に対する確実な予防の重要性を提言した。

(4) JTA 「テニス・メディカルセミナー」の開催

①「第14回テニス・メディカルセミナー」 平成16年7月11日(日)

会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂 参加者 218名

講師 佐藤 雅幸先生 田中 伸明先生

テーマ 「テニスにおけるスポーツ心理学の応用」

～持てる力を最大限発揮するために!!～

②「第15回テニス・メディカルセミナー」 平成16年10月23日(土)

会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂 参加者 110名

講師 金森 章浩 先生 内山 勝 先生

テーマ 「ジュニアの身体とテニス」～その無限の可能性～

③「第16回テニス・メディカルセミナー」 平成17年3月26日(土)

会場 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂 参加者 180名
講師 四宮 謙一 先生
テーマ 「腰痛とテニス」～腰痛に負けずテニスに頑張ろう～

④「AIG OPEN メディカルセミナー」

プロモーション委員会からの依頼により、AIG OPEN 2日目10月5日(火)に初めての試みとして、中高年テニスプレーヤー及びその指導者等を対象として「メディカルセミナー」を開催した。

会場 有明コロシウム資料室 参加者 71名

講師 別府 諸兄医事委員会委員長

テーマ 「中高年テニスプレーヤーの外傷(けが)障害(こしょう)の予防と対策」
～シニアテニスプレーヤーの悩み解消～

(5) 熱中症対策の実施

(ア) 夏の大会に対する熱中症予防支援資料の配付

次の大会ディレクターあて2種の資料を送付し活用を依頼した。

大会名

- ° 全国小学生テニス大会
- ° 全国高等学校テニス選手権大会
- ° 全日本学生テニス選手権大会
- ° 全日本ジュニアテニス選手権大会
- ° 全国中学生テニス選手権大会

送付資料

(財) 日本体育協会作成の「熱中症予防パンフレット」を大会規模に応じ200冊から700冊を送付。

医事委員会・トレーナー部会作成「熱中症予防及び具体的対策に関する掲示物」をそれぞれ4セットずつ送付。

併せて、大会プログラムに掲載する熱中症予防啓蒙記事「暑い日の試合には水分を十分に補給しましょう」原稿を送付し掲載を依頼した。

(イ) JTA メールマガジン2004/8/3VOL94に「テニス中の熱中症を防ごう」の記事を記載した。

(ウ) 熱中症に関する協会宛照会に対する対応

JTA メールマガジン記載の熱中症に関する記事を活用したいとの照会が2件あり、連絡のうえ次の対応をした。

- ° ジュニアの県大会(参加者1,000名)プログラムに記載する。
- ° クラブ(会員数100名)月刊会報に記事を掲載する。

また、山口県テニス協会医科学委員会からの熱中症に対する照会があり対応した。

(6) スポーツビジョンの研究とプロジェクトチーム編成の充実

スポーツビジョンについては、選手・指導者の協力を得なければ測定が実施できずデータの収集も難しくなるので、スポーツビジョン研究会との協議を重ね、平成17年度において、テニス界の理解を得るための手順・機器の活用方法を整備した。

併せて、プロジェクトチームに眼科医の参加が必要と考え、人材の確保に努力し新年度からの体制作りが整備できた。また、平成16年7月2日(金)、村松常任委員が日本整形外科スポーツ医学会第30回学術集会において、「テニスと視覚、テニスにおける視機能の重要性」のタイトルで、テニスとスポーツビジョンならびにスポーツビジョンを鍛えるために開発されたソフト、(株)アイパワースポーツ「POWER 3D VISUAL TRAINING SYSTEM」について発表した。

(7) 痙攣対策

①デ杯チームの痙攣対策の一環として、大塚製薬のご協力によりご提供頂いている

「経口補水液(商品名 OS-1)(厚生労働省許可 特別用途食品・病者用食品<個別評価型>)は、試合中の痙攣対策として、一定の効果を挙げているので、今後ともこの活

用につき検討を続けたい。

なお、某大学テニス部でリーグ戦に活用したところ、前年度は痙攣が殆ど全員に発生したが今年度は、殆ど痙攣は発生せず成果を挙げることが出来たとの情報も入っている。勿論昨年以来トレーニングによる体力増強・栄養管理等に努力した結果も好成績に繋がったと考えられるが、OS-1の活用は、有効な対策と思われるので、更に研究する予定である。

- ②植田オリンピック監督から調査を依頼された「全仏でコリア選手が足の痙攣を起こした時、錠剤を服用して立ち直ったが、どんなものを服用したのか」につき調査の結果、「Quinine:キニーネ」らしいとの情報があった。

先ずドーピングの禁止薬物に該当しないか、JADAにドーピングコントロール委員会から照会のところ、「キニーネは禁止薬物ではありません。しかしながら、副作用のため使用すべきではないと考えます。」との回答をえた。

従って、更にキニーネにつき調査のところ、「キニーネは脚の痙攣を改善する効果があるようであるが、多様な副作用がある」ことが確認された。

従って、これらの情報に基づいて、医事委員会として検討の結果、これほどの副作用が認められるものは、使用すべきではないとの結論になった

3. トレーナー業務の整備

- (1) 諸大会・デ杯・フェド杯等におけるトレーナー業務に就き、チーム体制で新人の研修を行ったり、既にスポーツ界で活躍しているトレーナーの協力を得る体制を進め整備をした。
- (2) 公認トレーナー制度の発足に向かって制度の整備を行ったが、先ず、各地で指導するトレーナーとセミナー講師を養成することが必要と考え、そのカリキュラムを作成した。
- (3) 「日本整形外科スポーツ医学会第30回学術集会」(平成16年7月2日)において「テニストーナメントにおけるアスレティックトレーナーのスポーツ外傷への取り組み」のテーマで、村木部会長が、トーナメント時のトレーナーの業務について具体的に説明すると共に、特にインジュリータイムにおいては、トレーナーの高度な知識と技術が必要であり、ドクター等とのコミュニケーション能力も要求されるポジションであるのでトレーナー育成制度を計画していることを発表した。

4. 地域メディカルサポート体制の整備

- (1) 全国のドクターの協力体制を強化するため、テニス・メディカルセミナーの資料や委員会議事録を配付すると共に、協力を求めた。
特に、全国中学生テニス選手権大会と全日本ベテランテニス選手権大会における大会ドクターについては、開催地に医事委員会のドクターがいなかったこともあり大会中のドクターの配置については地元の開業医・勤務医にご苦労をお掛けし、お陰様で大過なく大会を終える事が出来たが、この機会に、地域メディカルサポート体制につきご理解を得ることに努め、数名のドクターにご登録頂くことが出来た。また、テニス・メディカルセミナーの受講を切っ掛けとし、2名のドクターにもご登録頂いた。
- (2) 日本体育協会の公認スポーツドクター養成講習会につき、今後協会の業務にご協力頂けるドクターに候補者として応募頂き選考のうえ、6名の推薦を行い受理され内4名が基礎科目を終了した。

5. テニス医学情報の収集

- (1) 平成16年6月19日～20日にロンドンで開催された「The 2004 STMS World Congress in Tennis」に奥平部会員・赤池部会員の2名を派遣し、スポーツ医学の最新情報を収集した。特に、Tennis Legに関する報告やジュニアプレーヤーのサービスの練習の問題点などの情報が有益であった。

6. テニス障害の情報発信

- (1) JTAホームページを経由して、テニス障害について照会・相談があったものに対し具体的な回答を行うと共に、九州からの方には診療機関を紹介し治療を受けて頂いた。また、JTAホームページは海外でも読んでいる方があり、米国テキサスのヒューストンからの照会に対応したケースもあった。

(2)テニス雑誌社5社に対し、主としてメディカルセミナー情報を定期的に提供し活用頂いた。

7. テニス・メディカルセミナーのCD-ROM作成・頒布

今年度開催された第14回・第15回・第16回のテニス・メディカルセミナーを専門のカメラマンによりビデオに収録し、現在CD-ROMの制作を行っている。既に制作済みの第8回～第13回のCD-ROMについては、テニス・メディカルセミナー開催時会場にて販売すると共に、AIG OPEN等のJTAコーナーで一般の方々にも販売した。また、JTAホームページにてその内容を紹介し、購読を案内しているが、全国各地からお申し込みを頂き、セミナーに時間・地理的に参加出来なかったの方々にも最新のスポーツ医学の知識とノウハウを提供することが出来た。

総務本部 国際委員会（委員長：内山 勝）

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達。

I. 国際会議への派遣

1. 国際テニス連盟（ITF）関係

- a. 総会：2004年 6月8～10日 於 バルセロナ
出席：川廷栄一 松岡修造
内容：事業、財務、大会その他報告と提案。規約改正、競技規則変更で承認。川廷前理事が満場一致の支持を得て名誉終身副会長に推挙された。
- b. 委員会：
 - ・オリンピック委員会 3月25～26日 於 アテネ
出席：川廷栄一
内容：アテネ大会の準備状況報告、出場選手、審判、役員の推薦選考
 - ・オリンピック委員会 6月30日 於 ロンドン
出席：川廷栄一
内容：出場選手、ワイルドカード決定
 - ・男子サーキット委員会／チャレンジャー委員会
6月23日 於 ロンドン
9月 1日 於 ニューヨーク
出席：川廷尚弘
内容：大会認定、日程承認、ルール改正
 - ・タスクフォース会議 2005年 2月15～16日 於 ロンドン
出席：岡村徳之
- c. 事務局：アジア地域レジオナルエクゼクティブとして川廷尚弘が従事。各国協会との会議、大会視察及び運営協力は別記の通り
- d. 対北京五輪対策会議（川廷栄一） 12月15～16日 於 ロンドン
ITF北京会議（川廷栄一） 2005年 1月18～19日 於 北京

2. アジアテニス連盟（ATF）関係

- a. 総会：3月12～14日 於 ドハ
出席：川廷栄一 川廷尚弘
内容：アジア選手権、ジュニアサーキット提案、審判育成計画
- b. 全体会議：6月 8日 於 バルセロナ
出席：川廷栄一 松岡修造
- c. 理事会：7月30～31日 於 マニラ
2005年 1月20～23日 於 メルボルン
出席：川廷栄一 川廷尚弘
- d. 委員会：
 - ・審判委員会 12月13日 於 カタール
出席：川廷尚弘
- e. トーナメント会議 11月13～14日 於 バンコク

- 出席：畠中君代 岡村徳之（川廷尚弘 A T F 講師で出席）
 ・審判員キャンプ 7月12日～15日 於 パタヤ
 出席：岡村徳之（川廷尚弘 A T F 講師で出席）

II. 日本オリンピック委員会（JOC）関係

1. 会議

- a. 評議員会 : 2005年 3月18日
 盛田正明評議員 川廷栄一副会長
- b. 理事会 : 2004年4/5 5/13 7/13 9/9 11/18 2005年1/27 3/24
 川廷栄一副会長（2005年3月末、定年で任期終了）
- c. 調整会議 : 川廷栄一副会長
 定例会議 4/12 5/10 6/16 10/27 11/15 12/23 2005年1/10 3/18
- d. 委員会 :
- ・国際委員会 委員長 川廷栄一
 - ・国際団体役員フォーラム主催（5月19日 於 国立スポーツ科学センター）
 委員会 6/15 10/19 11/29 12/8 2005年3/23
 - ・総務委員会 渡辺康二委員
 - ・スポーツ環境委員会 松岡修造委員
 - ・選手強化本部 委員 坂井利郎委員
 - ・〃 競技者育成部会 副部長 福井 烈委員
 - ・アスリート委員会 松岡修造委員
 - ・ユニバシールド委員会 土橋登志久委員
 - ・事業・広報委員会 沢松奈生子委員
- 各委員が、定例委員会に出席し活動に従事した。

川廷副会長は任期中、上記の他強化、ワールドプラン、女性委員会にも出席。

2. 行事出席：川廷栄一

- a. 対イラク支援会議 (4月14日 於 外務省)
- b. 国際陸上グランプリ (5月9日 於 大阪長居)
- c. 北京五輪組織委員会 (5月31～6月3日 於 北京)
- d. アテネ五輪日本選手団結団式／解団式 (6/14 9/1 於 東京)
- e. 韓国NOC協定調印式 (8月2日 於 アテネ)
- f. JOC／読売オリンピックフォーラム (10月15日 於 大阪)
- g. 外務省竹内事務次官懇談会 (11月2日 於 外務省公館)
- h. JOC強化フォーラム (11月5日 於 東京)
- i. JOCメディアフォーラム (12月2日 於 東京)
- j. アジアパシフィック競技会議 (2005年1月12～13日 於 シアトル)
- k. 冬季五輪会場視察 (1月14日 於 バンクーバー)
- l. スウェーデン会長懇談会 (2月13日 於 大阪)
- m. JOCコーチサミット (3月15日 於 東京)

3. アジアオリンピック評議会（OCA） 川廷栄一 JOC代表

- a. 年次総会 (7月1日 於 ドハ)

4. 東アジア競技大会連合（EAGA） 川廷栄一 EAGA副会長に就任

- a. 理事会 (4月17～18日 於 マカオ)
- 理事会 (8月3～4日 於 マカオ)
- b. 年次総会 (10月29～30日 於 マカオ)

5. 国際学生スポーツ連盟（FISU） 川廷栄一テニス担当委員長

- a. 年次総会 (6月17～20日 於 イズミル)
- b. 委員長会議 (12月13～14日 於 イズミル)

6. 日本オリピアンズ協会（AJO） 松岡修造 AJO理事に選出

III. 国際テニス団体

1. 男子プロテニス選手協会 (ATP TOUR)
有沢三治理事 (AIGオープンディレクター)
2. 女子テニス協会 (WTA TOUR)
野地俊夫 (東レPPOディレクター)
川廷尚弘スーパーバイザー

IV. 国際大会／行事への運営及び参加

1. アテネオリンピック大会 8月10～30日 於 アテネ
川廷栄一テニス競技テクニカルデレゲイツとして運営を担当
岡村徳之コートオフィシャルとして従事
2. ITF世界チャンピオン表彰式 6月1日 於 パリ
盛田正明会長 矢沢猛室長 佐藤政廣常務理事

V. 海外行事出席

- a. フェド杯対アルゼンチン戦 (川廷 4月22日～25日 於 ブエノスアイレス)
- b. 北京国際網球選手権 (ATP/WTA) (川廷 9月14～18日 於 北京)
- c. 韓国オープン (WTA) (川廷 10月2～3日 於 ソウル)
- d. アジアシニアインターシティテニス大会 (川廷 11月23～27日 於 プーケット)

VI. 国内開催行事

- a. デ杯対インド戦 4月9～11日 於 大阪鞆コート
- b. JAPAN OPEN国際車いす選手権 (川廷 5月15～16日 於 飯塚)

VII. 来日海外役員への対応

- a. 韓国テニス協会会長、国際理事 (10月8日 於 東京)
- b. 豪州テニス協会会長 (10月9日 於 東京)

VIII. 海外各国協会との会議

- ・(川廷栄一副会長)
 - a. マレーシア協会 会長 専務理事 (4月20日 於 クアラルンプール)
 - b. アルゼンチン協会 会長 事務局長 (4月25日 於 ブエノスアイレス)
 - c. タイベテラン協会 会長 専務理事 (8月2日 於 プーケット)
- ・(川廷尚弘ITFレジオナルエクゼクティブ)
 - a. 中国協会 主席代表 (4月4日 於 武漢)
 - b. スリランカ協会 会長 専務理事 (4月19日 於 コロンボ)
 - c. 韓国協会 会長 専務理事 (5月18日 於 ソウル)
 - d. キリギスタン協会 首相 専務理事 (5月24日 於 ビシュケク)
 - e. ウズベキスタン協会 専務理事 (6月1日 於 タシュケント)
 - f. インドネシア協会 会長 国際委員長 (8月2日 於 ジャカルタ)
 - g. カタール協会 会長 普及委員長 (12月12日 於 ドハ)
 - h. 香港協会 事務局長 (2005年1月4～6日 於 香港)
 - i. 中国台北協会 理事長 事務局長 (1月20日 於 台北)
 - j. アラブ首長国協会 事務局長 (2月17～20日 於 ドバイ)
 - k. タイ協会 副会長 事務局長 (3月7～10日 於 バンコク)

IX. 大会視察及び運営協力 (ITF ATP WTA担当 川廷尚弘)

- a. 韓国 WTA TOUR大会 (5月17日 於 ソウル)
- b. ウズベキスタン ATP大会 (5月21～23日 於 フェルガナ)
- c. 英国 全英オープン (6月21～23日 於 ロンドン)
- d. タイ フェド杯 タイ対豪州戦 (7月11日 於 バンコク)
- e. 中国 国際大会 (7月22～23日 於 シンセン)
- f. スリランカ 国際大会 (8月13～16日 於 コロンボ)
- g. タイ アジアシニア選手権 (8月20～22日 於 パタヤ)
- h. 米国 全米オープン (8月30～31日 於 ニューヨーク)
- i. タイ アジアインターシティ (11月25日 於 プーケット)

するなど新しい試みも行った。

2. メールマガジンの発信

インターネットによるメールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデ杯、フェド杯、全日本、ジャパンオープンなど主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。

3. メディアメールの発信

昨年に引き続きより効率の良いプレスや専門誌への情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをスタートした。従来の記者発表や投げ込みに加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。

4. JTA NEWS の発行

JTA NEWS をアニュアルレポートとして8月に発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は11000部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

5. テニスプレーヤーズガイドの発行

マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者むけのガイドブックとして、1000部を発行した。

6. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行

フェド杯、全日本、ジャパンオープン等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫したJTAポリシーを入れるようにスタートを切った。

7. プレスルームの運営

全日本選手権、AIG ジャパンオープンなど大きな大会でのプレスルームの運営を広報委員会での管理運営を行った。これにより新聞、テレビなどのプレス関連の人たちとの交流も密に行われた。また試合の組み合わせ表の作成とその発信を担当し円滑な情報発信を行えるように努力した。

マーケティング本部 プロモーション委員会 (委員長：青木 弐)

1. 各種大会への誘客イベントの実施

①デビスカップへの支援活動：

4月9-11日大阪で開催されたアジア／オセアニアゾーン・グループ1（対インド戦）に際し、日本チーム応援団結成支援活動を行なうと同時にメディアによる広報活動支援を行なう。

②全日本ジュニア選手権の支援活動：

大会支援のスポンサー継続支援取り付けなどの活動を実施。

③テニスの日事業への支援活動：

9月23日（祭）に有明テニスの森公園・コロシウムにて開催された「テニスの日」運営への全面協力。

④AIG Japan Open 事業への支援活動：

1) インフォメーションカウンター及びJTAコーナーの開設・運営、各種イベント開催など観客サービス並びに選手サービスの向上を図る。

2) 東京都・神奈川県内に在る外国人が主に利用しているテニスクラブをプロモーション委員が個別訪問、マスコミ・メディア、有明のパナソニック大型ビジョンを活用するなどしてAIG Japan Open の広報・観客動員活動を実施。

3) 有明テニスの森公園・コロシウム（協会主管）での観客動員数が昨年比約7千人増の55,875人となった。→ 選手、メディア（新聞・雑誌・ラジオ放送・TV放送）、観客（テニスサポーター）、スポンサー対策実施の相乗効果が現れた。

⑤全日本選手権大会の支援活動：

1) インフォメーションカウンター及びJTAコーナーの開設・運営、各種イベント開催、

- マスコミ・メディアを活用した広報活動の実施による動員・観客サービスの充実化。
- 2)大会メディアルーム運営への支援活動によりメディアとの好関係の拡大を図る。
 - 3)文部科学省が新設した「総合的な学習」への支援協力を実施。
 - 4)大会期間中の観客動員数が昨年比約5.5千人増の約28,000人となった。
- ⑥東レPPOでのJTAコーナーの開設・運営(2005年1月29日～2月6日予戦含む)：
- 1)JTAグッズ・書籍(テニス指導教本、コートの子、メディカルセミナーCD-ROM、ITFコーチマニュアル、テニス資料館設立準備に関するテニス絵葉書など)の販売。
 - 2)クラブJTA入会の勧誘活動・テニスメディカルセミナー案内活動等を実施。

2. ホームクラブ制度の発足と運用

(社)日本テニス事業協会、普及委員会、強化委員会と協同にて、ナショナルトレーニングセンター返却に伴う選手強化拠点の喪失を補填するものとして、テニス選手の為の「ホームクラブ制度」を発足させて2年が経過。近藤大生プロなど11名の選手がこの制度を利用中にて今後の利用拡大を図っている。

3. テニスサービス協会の具現化

盛田会長の掲げる「サービス精神」を常に具現化して行くことがテニス界の発展に繋がる事を改めて確認すると同時に昨年同様スポンサー、観客(テニスサポーター)、テニス選手、テニス施設供給者の満足度を向上させる為の提言・活動に結びつけることにした。具体的な活動内容：

- ①テニスサポーターの満足度を高めるマスコミ・メディアとの交流活発化。
- ②スポンサーとの関係緊密化、満足度の向上。
- ③テニス選手支援対策。
- ④テニス関係団体、支援組織(TPC等)、インターネット事業者との関係緊密化。
- ⑤テニス施設供給者(東京都港湾局など)との関係強化。
- ⑥テニスボランティアの組織化。
- ⑦日本・EU友好テニスイベント(於：有明テニスの森公園)への支援活動の実施。
「組み」への着手(普及委員会と合同にて)。
- ⑧オーストラリアオープン2005の大会運営・イベントを視察する目的で西野薫委員を派遣し、今後の日本におけるテニス大会運営の情報収集を図った。

マーケティング本部 IT企画委員会(委員長：篠崎 明毅)

1. テニス人口増大の方向の中で協会諸活動を円滑に行うためのIT化推進策立案

- ・IT化のコンセプト作り
 - ・コンセプトの共有化への地ならし
 - ・当面の不整合/無秩序化を回避するための指針作り
- 16年度IT企画委員会事業計画書として上記を掲げ、推進方法・予算姿勢などに関する「IT委員会活動方針」を提出したが、はっきりせず、進展はなかった。

2. リアルタイムスコアボードシステム

上記「IT委員会活動方針」にて、リアルタイムスコアボードに関する予算姿勢も提出したが、はっきりせず、前年同様の他委員会主管でのお手伝いとどまった。

マーケティング本部 企画委員会(委員長：橋本 有史)

1. 有明テニスの森公園コートの屋内化の可能性の調査

企画委員会では有明テニスの森公園をアジアのテニスのメッカにする、との目標にそって各種国際大会、国内大会の誘致や公園利用者数の増大のため、同地区の屋内テニスコートの整備の可能性についての検討を行った。実際には施設の所有者である東京都港湾局との密接な協議の元に、同地区内の屋内コートの設置場所の検討、建設費の算出、スクール事業等を通じての建設費の回収、それらの事業方式、推進方式の検討を行った。6月常務理事会に報告をまとめたが、上記企画の実現の可能性はあるものの、スクールの採算、や各種制約条件から解決すべき課題は多々あるとの結論となった。JTAとしても、当初期待していた

ナショナルトレーニングセンターが西が丘にて実現可能であることやJTAがリスクを取ることは適切でないことから、企画の実行は中断し、ネーミングライツ等にてスポンサーが付けば改めて検討することとなった。

トーナメント本部 国内大会委員会（委員長：姫井 義也）

1. 国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理

- 1) トーナメント改革の推進
 - (1) トーナメント競技規程の改訂(括弧内の数字は「コートの友 05 年版」の頁)
 - ① 参加料の規定を改訂した (164 頁)。
 - ② ワイルドカードの扱いを改訂した (164 頁)。
 - ③ 予選ワイルドカードの扱いを改訂した (171 頁)。
 - (2) 倫理規程の改訂
 - ①「不当な遅延(Unreasonable Delay)」に関する規定を新設した (192 頁)。
- 2) JOP 大会の点検

諸点検の内、特記事項として、昨年度以来、サスペンション・ポイントを賦課されたプレーヤーのチェックを厳密に行った結果、本年度は出場停止処分者は皆無であった。
- 3) その他
 - (1) JTT大会、JOP大会の公認

05年4月～06年3月までの、JTA主催大会を除く以下のトーナメントを公認した。

 - ① JTT大会 14大会 (内男子 8、女子 6)。
 - ② JOPカテゴリーAの男子 108大会、女子 86大会。
 - ③ JOPカテゴリーBの男子 14大会、女子 14大会。
 - ④ JOPカテゴリーCの男子 41大会、女子 39大会。
 - ⑤ JOPカテゴリーDの男子 1大会、女子 1大会。
 - ⑥ JOPカテゴリーTの男子 10大会、女子 11大会。
 - (2) スケジュール調整会議とテニスカレンダーの作成
 - ① 前項に基づき、04年12月13日、岸記念体育会館にて、公認大会主催関係者出席による日程調整会議を開催した。
 - ② 前項①に基づき、05年1月7日に05年度テニスカレンダーを作成し、発表した。

2. 「コートの友」の発刊・販売ならびにルールの周知徹底

- 1) 「コートの友 05 年版」の編集と出版
 - (1) 05年3月1日に発行。2万部印刷。
 - (2) 05年3月1日～31日現在で13,537部販売済み。
- 2) 「コートの友 04 年版」の拡販
 - (1) 04年4月1日～05年2月の販売数は4,921部・・・①
 - (2) 04年3月1日～31日現在の販売数は14,430部・・・②
 - (3) 従って「04年版」の販売数合計は、①+②=19,351部

3. JTP・JOP ランキングの作成・公表ならびに年間ランキングの作成・公表

- 1) JTP・JOPランキングは月例で作成し公表した。
- 2) 日本テニス順位作成基準の見直しと04年度ランキングの作成・公表
 - (1) 現実にそぐわない現行作成基準を見直した。
 - (2) 名称を「日本テニスランキング作成規程」とし、04年12月13日の国内大会委員会で案を可決、05年3月15日の常務理事会で承認された。
 - (3) 新規程に基づき、05年3月15日に承認、公表した。

トーナメント本部 実業団委員会 (委員長：仲島 彰信)

1. 第19回テニス日本リーグ

① 1st ステージ：平成16年12月10日(金)～12日(日)

② 2nd ステージ：平成17年 1月20日(木)～23日(日)

会場：横浜国際プール・北九州穴生ドーム・荏原湘南スポーツセンター・広島広域公園

③ 決勝トーナメント：平成17年2月19日(土)～20日(日)

会場：東京体育館

男子16チーム、女子10チームをそれぞれ2ブロックに分けリーグ戦を行い、各ブロック上位2チーム、計4チームによる決勝トーナメントの実施。試合は2シングルス・1ダブルスにて行う。

テニスイベント等日本のトップ選手の出場もあって大会の充実が促進。各会場盛況。東京体育館は1日5000人以上を動員。特に最終日は初めての試みとして決勝戦・3位決定戦を同時試合開始としたので、観客の入れ替わりもなく大いに盛り上がった。

また選手入場も全チーム同時にプラカードを持っての入場にしたので、観客から見てより体裁が整ったと考える。TVの放映(GAORA)も3回行うなど選手・運営・観客の一体化も進んでいる。

1st ステージの土曜日に北九州会場にて出場選手の協力を得てジュニアクリニックを、決勝の東京体育館では東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催。更に日本リーグ観戦招待の展開も行う。観戦招待では1400名余の応募があり観戦に来場。尚、今後の日本リーグのあり方については、各方面の意見を聞きながら引き続いて検討する。

2. 第18回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)

平成16年10月14日(木)～17日(日)

会場：広島広域公園テニスコート

日本リーグ昇格チーム決定の大会で、男子16チーム、女子12チームにより行われ、男子上位4チーム、女子2チームが昇格。試合は日本リーグと同じく2シングルス・1ダブルスにて行う。

3. 第43回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)

平成16年8月27日(金)～29日(日)

会場：ニセコ東山プリンスホテルテニスコート

男子32チーム・女子24チームの1シングルス・2ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを行うため、全チーム2～3日間にわたり試合を行う。

実業団の普及大会であるがレベルは年々向上。選手間のコミュニケーションも深まり交流試合にまで発展している。楽しい大会として熱気も高まり、特に懇親パーティーは大変盛り上がり好評。

問題点：2年ほど前から顕著になってきた女子チームの試合参加数の減少。地域格差はあるが女子のチーム編成に難しさがあり、A大会出場チームが減少。

検討委員会を開催し対策を検討。出場選手の資格についての制限を、日本リーグおよびA大会において外国籍選手を除いて撤廃し、更に女子については都市対抗野球の方法を活用し補強選手1名の登録も認めることにした。

また、地域テニス協会にとって実業団は大きな財源と思われるが、その組織化に相変わらず意欲的でないように見受けられる。東京都テニス協会の実業団委員会を参考にしてPRを続けていきたい。

トーナメント本部 国体委員会 (委員長：森 清吉)

1. 第59回国民体育大会テニス競技の運営

第59回国民体育大会(埼玉県)開催

事業内容：期 日：平成16年10月23日(土)～27日(水)

場 所：埼玉県川口市青木公園コート
さいたま市大宮第2公園コート
参加人数：成年男子32都道府県96人、成年女子32都道府県96人
少年男子43都道府県129人、少年女子47都道府県141人、
合計 462人
内 容：成年男子・女子は青木公園コート（前年全日本都市対抗テニス大会を開催）で、桂宮殿下のご臨席を賜り地元埼玉県成年男子の試合をご観戦いただきました。少年男子・女子は大宮第2公園コートで開催。前年のリハーサル大会の経験を生かし、1日は雨天であったが、無事終了しました。地元埼玉県が全種目で上位入賞を果たし、見事天皇杯の栄誉に輝きました。

2. 第28回全日本対抗テニス大会の実施

第28回全日本都市対抗テニス大会（第60回国民体育大会リハーサル大会）

事業内容：期 日：平成16年8月12日（木）～14日（土）

場 所：岡山県備前運動公園コート

参加人数：32都道府県、544人

内 容：平成17年10月に開催されます国民体育大会のリハーサル大会として開催しました。今回は特別な事情により期日も7月から8月と変更になり、サブタイトル名もプレ大会とし開催しました。6年前からの正規視察より準備を重ね、備前市、岡山県テニス協会のご尽力により無事終了しました。優勝は来年開催されます神戸市が接戦を勝ち抜き栄冠を手に入れました。来年の国体での大きな課題は宿舍の問題です。

3. 第28回全日本都市対抗テニス大会の準備等

事業内容：上記大会抽選会および現地開催視察

期 日：平成16年7月8日（木）

場 所：岡山県備前市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦

4. 国体委員会の開催

①第1回国体委員会

事業内容：全日本都市対抗および国体開催の準備状況について、その他

期 日：平成16年8月11日（水）

場 所：岡山県備前市体育館

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋、全国9地域国体委員全員

②第2回国体委員会

事業内容：国体開催の準備状況および国体出場者の確認、その他。

期 日：平成16年9月22日（水）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋、全国9地域国体委員全員

③第3回国体委員会

事業内容：埼玉県国体の準備状況報告、第29回全日本都市対抗テニス大会の準備報告、その他。

期 日：平成16年10月22日（金）

場 所：埼玉県さいたま市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋、全国9地域国体委員全員

5. 財団法人日本体育協会国体委員会への出席

①期 日：平成16年5月14日（金）

場 所：岸記念体育会館

出席者：森 清吉 国体委員長

内 容：国体改革2003対応プロジェクト

- ②期 日：平成 16 年 6 月 15 日（火）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：国体改革 2003 対応プロジェクト
- ③期 日：平成 16 年 6 月 17 日（木）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：第 62 回国民体育大会開催地（秋田県）の決定について
第 64 回国民体育大会開催地（新潟県）内定について
第 60 回国民体育大会夏・秋季大会実施要項総則（案）について、その他。
- ④期 日：平成 16 年 7 月 7 日（水）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：国体改革 2003 対応プロジェクトの状況説明（全競技団体）
- ⑤期 日：平成 16 年 7 月 12 日（月）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：国体改革 2003 対応プロジェクト
- ⑥期 日：平成 16 年 8 月 5 日（木）
場 所：千葉県柏市
出席者：森 清吉、杉澤雅敦副委員長
内 容：第 65 回国民体育大会（千葉県）第 1 回正規視察。
- ⑦期 日：平成 16 年 9 月 16 日（木）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：国体改革 2003 対応プロジェクト
- ⑧期 日：平成 16 年 9 月 22 日（水）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋常任委員、全国 9 地域国体委員 9 名全員
内 容：第 59 回国民体育大会（埼玉県）テニス競技抽選会
- ⑨期 日：平成 16 年 12 月 24 日（金）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：国体改革 2003 対応プロジェクト
- ⑩期 日：平成 17 年 1 月 27 日（木）
場 所：岸記念体育会館
出席者：森 清吉
内 容：第 3 回国体運営部会、国体改革 2003 対応プロジェクトの説明（全競技団体）
※ 国体改革 2003 対応プロジェクトの主な内容は、中学 3 年生と外国籍選手の出場についてです。

トーナメント本部 選手登録委員会（委員長：会川 克行）

1. アマチュア選手の登録管理

- ①本年度の選手登録者数は、11,000名。剰余金は1,400万円と各々事業計画を上まわった。
- ②選手登録者の増加を図る新しいシステムがようやくまとまり、平成17年度より実施することになった。新システムはベテランと一般を分離して管理することにして、特に、ベテランはベテラン選手が今後ますます増加することが予測されるので、新設されたベテラン本部のベテランシステム委員会で管理し、一般は従来通り事務局で管理することで、積極的に選手登録者の増加を図ることになった。従って、選手登録委員会は平成16年度末にて廃止することになった。

トーナメント本部 審判委員会（委員長：森井 靖忠）

1. 各種大会へのレフェリー・審判員の派遣

年間公認審判員有資格者（B級以上）の大会希望を取りまとめ、各大会へベストの審判員を送るべく努力している。長期に亘る予定のため審判員の予定変更が多い。また大会の予算制限により、ベストの審判員のアサイメントが難しく、担当者にとって大変な作業であった。

①各大会の指名主審に任命された審判員は、12項目からなる「審判員の勤務環境についてのレポート」を大会毎に提出する。委員会の見解を年度末に集計しバッジホルダー審判員に配布している。

②ラインアンパイア・ボールパーソン勤務数：

	ラインアンパイア	ボールパーソン
デ杯 大阪	22	12
全日本	360 (延べ人数)	280 (延べ人数)
AIG Japan Open	500 (延べ人数)	380 (延べ人数)
他の国際大会 (23)	1,200	
国内大会 (1)	46	

2. 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施

①有望新人の発掘と養成のため指導員の派遣

新人発掘と養成の出来る認定指導員に限られており、又認定員自身国内及び海外での審判・レフェリーの実務を要求されているため、派遣回数には限定されたが、審判・レフェリーへの関心を高めることができた。

日時：9月・10月・11月

場所：茨城・埼玉・京都・須玉・全日本

参加者総数： 12名

②レベル I スクール合格者

四方田涼子（福岡）・岡川恵美子（神奈川）

③海外大会への国際審判員の派遣

氏名	ポジション	大会名
川廷尚弘	レフェリー	中国 ITF \$ 5 万・ウズベキアジア選手権・ 中国 ATP・WTA ツアー（中国、タイ）・タイ ITF \$ 1 万・ AIG JAPAN OPEN・ベトナム DAVIS CUP・ インド DAVIS CUP
	スーパーバイザー	韓国 WTA ツアー・
岡村徳之	主審・ライン	アテネオリンピック・US Open・ソウル WTA
大原泰次郎	主審・ライン	China Open・Australian Open・Australian Open Junior・ Sydney Medibank Int'
小林あおい	レフェリー	Korea Open(車いす)・モンゴル\$25000
藪野容子	主審	Korea Open(車いす)
辻村美和	主審・ライン	China Open・Australian Open・Australian Open Junior・ Sydney Medibank Int'
四方田涼子	主審	ITF Circuit (北京)
海原真弓	主審	Korea Open(車いす)
近藤康幸	主審	Korea F1
松野えるだ	レフェリー	中国北京 \$ 25000 Circuit・ 韓国インチョン \$ 10000 Circuit 韓国ソウル \$ 10000 Circuit

3. 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施

① C級審判員認定会

認定員：岡村徳之・川廷尚弘・松野えるだ・田中信子・大久保範子・大原泰次郎・八木真理
都道府県から JTA に申請書が提出され、認定員を派遣した講習会・及び認定講習会は 21 回開催し、およそ 800 名の新規審判員を誕生させた。この中から審判員育成として国内で開催される国際大会の主審を経験してもらった。

開催都道府県：福岡・岡山・秋田・大阪・埼玉・宮崎・沖縄・滋賀・千葉・新潟・東京・北海道・鳥取・愛知・岩手・石川・栃木・普及指導委員会・専門学校・関東学生連盟・

② B級審判員認定会

開催日：12月18-19日

開催地：秋田県

合格者：16名

③ A級審判員審査会

公認審判規程に基づき審査し、常務理事会で承認された。

A級昇級者1名 光富美穂子（佐賀県）

④ B級レフェリー認定会

開催日：6月19日・20日

開催地：埼玉

合格者：44名

⑤ 学連・専門学校生の講習会

関東学連の講習会は7月に開催された。加盟大学のテニス部から最低2名の参加が義務付けられており、2日間で約300名の受講者がある。毎年数名、主審・ラインで活躍している。この中から既に国際試合の主審を経験し、AIG・全日本の線審・ボーラー・競技本部の運営を務めている。また3校の専門学校生は、全日本・AIGに線審・ボーラーでご協力いただいている。

4. 諸外国の審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善

① 岡村徳之委員はレベルIIスクールにおいて ITF のチーフオブアンパイアに合格した。PPOでチーフとして活躍している。

② 川廷尚弘委員は、ITF, ATF, WTA の Executive として、数多くの国際会議への出席、大会運営に携わり、また各国協会と審判員の指導を行い、アジア地域のテニス活動の向上に協力し、同時に現地において日本人選手の支援に従事する等、国際的な活動を積極的に行うと共に、その経験を日本に feedback することにより、審判員の育成に貢献している。

③ 各試合がエキサイティングに展開され、スムーズに運営されるためには、審判団の役割が非常に重要である。審判団の技量の向上を図るのは、当然であるが、大変な神経を使う審判団の待遇改善を是非実現して頂きたいものである。

5. 審判員・レフェリーの16年度登録管理

① 公認審判員・レフェリー16年度更新登録者数

C級公認審判員：600名

B級公認審判員：300名

A級公認審判員：4名

B級レフェリー：20名

特別レフェリー：13名

トーナメント本部 国際大会委員会（委員長：畠中 君代）

1. 各種国際大会の主催ならびに後援・公認

〈男子大会〉

① 甲府男子フューチャーズ F1(山梨/4月13日～18日)

② 静岡男子フューチャーズ F2(静岡/4月20日～25日)

③ 昭和の森男子フューチャーズ F3(東京/4月27日～5月2日)

- ④SANIX 男子フューチャーズ(宗像市 ・5月24日～30日)
- ⑤SANIX 男子フューチャーズ(宗像市/6月1日～6日)
- ⑥TTC かしわオープン男子フューチャーズ(柏市8月31日～9月5日)
- ⑦MSS フューチャーズ (東京/9月7日～12日) *新設

〈女子大会〉

- ①東レ パン・パシフィック・テニス (東京/2月3日～2月8日)
- ②山口国際女子(山口4月13日～18日)
- ③浜名湖国際女子 (三ヶ日町 4月20日～25日) *新設
- ④カンガルーカップ国際女子 (岐阜/4月27日～5月2日)
- ⑤福岡国際女子オープン (福岡/5月5日～9日)
- ⑥軽井沢国際女子 (長野/5月11日～16日)
- ⑦草津国際女子 (群馬/7月12日～17日)
- ⑧埼玉国際女子 (川口/8月31日～9月5日)
- ⑨セキショウ国際女子 (茨城/ 9月7日～12日) *賞金額増加
- ⑩GS ユアサオープン(京都/9月14日～19日)
- ⑪広島国際女子(広島/9月21日～26日)
- ⑫榛原国際女子 (静岡/10月19日～24日)
- ⑬昭和の森国際女子(東京/10月23日～27日)
- ⑭須玉国際女子 (山梨/10月29日～11月4日)

〈ジュニア大会〉

- ①兵庫国際ジュニア大会 (三木市/第1週=8月31日～9月5日)
- ② 第2週 =9月7日～12日

2. 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘

〈一般主催大会〉

- ①AIG OPEN 2004
- ②第41回 島津全日本室内テニス選手権大会 2005
(男子 ATP 京都チャレンジャー)

〈ジュニア主催大会〉

- ①JAPAN OPEN JUNIOR 2004 (ITF=G1 大会)
- ②大阪市長杯ワールドスーパージュニアテニス 2004 (ITF=GA 大会)

3. トーナメント改革の実施

参加日本人選手にとってポイントが効果的に獲得でき、グランドスラムへ進めるように出来る限り効果的大会の配置を検討。17年度は ITF レベルの大会を男子10大会、女子15大会開催する運びとなった。またより良い大会開催のため、委員を大会に派遣したり、新設大会の打ち合わせやサイトチェックを派遣し行った。(十勝、軽井沢)

本年度は選手が日本にいながらポイントを効果的に取れるよう、特に女子は各大会に賞金の増額をお願いした。

4. 国際大会視察の実施

- 4月：デビスカップ・インド戦
ジャパンオープンジュニア 2004 (名古屋)
山口国際女子(山口市)
甲府男子フューチャーズ(甲府)
浜名湖国際女子(三ヶ日町)
- 5月：福岡国際
カンガルーカップ(岐阜)
- 9月：MSS 男子フューチャーズ(有明)
広島国際女子(広島市)
GS ユアサ国際女子オープン(京都)

5. 国際大会ディレクター会議の開催

- ①4月22日：国際大会関係者会議
- ②5月27日：国際大会関係者会議

- ③ 6月 3日：委員会と大会ディレクター合同会議
- ④ 7月 5日～7日：十勝オープン打ち合わせ
- ⑤ 8月 6日：第2回委員会—2005年カレンダー検討委員会
- ⑥ 9月 28日：在京委員会

ベテラン本部 ベテラン委員会（委員長：佐藤 国三郎）

1. 第66回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

- 予 選：平成16年10月11日 男子単60,65才以上,女子単50,55,60才以上
 平成16年10月12日 男子単50,55才以上
 平成16年10月13日 男子単35,40才以上
 平成16年10月14日 男子単45才以上,女子単40,45才以上
- 本 戦：平成16年10月11日～10月19日 9日間
- 本 種 目：男子単35,40,45,50,55,60,65,70,75才以上 9種目
 : 男子複35,40,45,50,55,60,65,70,75,80才以上 10種目
 : 女子単40,45,50,55,60,65才以上 6種目
 : 女子複40,45,50,55,60,65,70才以上 7種目
 以上、32種目（ただし男子複80才以上は、オープン参加とし次年度より正式種目とする予定）
- 会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター（室内外共砂入り人工芝コート20面、内4面室内）
- 参加資格：①JTAに当該年度（平成16年4月1日～平成17年3月31日）の選手登録を行ったアマチュア・プロフェッショナル登録者
 ②ベテランJOPランキング規定によるベテランJOP取得者
- 参加人数：ランキング：男子単35,40,45,50,55,60,65才以上 7種目 82名
 : 女子単40,45,50,55,60才以上 5種目 60名
- 補 欠：男子単70,75才以上 2種目 5名
 : 男子複35,40,45,50,55,65,70才以上 7種目 58名（29組）
 : 女子単65才以上 1種目 5名
 : 女子複40,50,55,60,65,70才以上 6種目52名（26組）
- 予 選：男子単35,40,45,50,55,60,65才以上 7種目 84名
 : 女子単40,45,50,55,60才以上 5種目 50名
- 本 戦：男子単35,40,45,50,55,60,65,70,75才以上 9種目264名
 : 男子複35,40,45,50,55,60,65,70,75,80才以上
 10種目 326名（163組）
 : 女子単40,45,50,55,60,65才以上 6種目 132名
 : 女子複40,45,50,55,60,65,70才以上 7種目280名（140組）
 以上総合計延人数32種目 1398名（358組）

グレード：A

補 足：ベテランJOP対象大会は、グレードAの本大会を頂点として、B1（1大会）、B2（2大会）、C1（2大会）、C2（2大会）、D1（5大会）、D2（2大会）、E1（6大会）、E2（24大会）および日本スポーツマスターズテニス競技（日体協と共催）の計46大会がある。なお上記JOP対象大会ではないが、公認大会としては文部科学省主催の第17回スポレク祭大会（福井）、厚生労働省主催の第17回ねんりんピック大会（群馬県）、関東テニス協会および東海テニス協会主催の全国混合ダブルス大会がある。

2. 第28回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力

- 予 選：平成16年11月4日～9日
- 本 戦：平成16年11月4日～11月14日 11日間
- 種 目：全日本ベテラン選手権大会と同じ
- 参加人数
- 予 選：男子単55,60,65才以上 3種目 41名

: 男子複 55, 65, 70才以上 3種目 30名 (15組)
 : 女子単 50, 55, 60, 65才以上 4種目 43名
 : 女子複 50, 55, 60, 65, 70才以上 5種目 66名 (33組)
 本 戦 : 男子単 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75才以上
 9種目 173名
 : 男子複 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75才以上
 9種目 164名 (82組)
 : 女子単 40, 45, 50, 55, 60, 65才以上 6種目 96名
 : 女子複 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70才以上
 7種目 200名 (100組)
 以上総合計延人数 31種目 813名 (230組)

グレード : B1

補 足 : 全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、我国唯一の天然芝コート会場である。また、コートの友の「トーナメント管理規程の参加資格」により外国に在住する外国人選手の参加を認めている大会でもある。

3. 47都道府県協会主催のベテランJOPPE大会の推進と運営協力

事業内容 : 事業内容 : 長寿社会を迎えた今日、47都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化に資するため当委員会が策定提案した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策としてのグレードE大会は、各協会のご協賛を得て、本年度はE1大会は6大会、E2大会は24大会計30大会となり、昨年より4大会増加するとともに、E2大会より全国レベルのE1大会へ、さらにE1大会よりその上のD大会への指向が強まってきた。その結果、D2大会への新設要請も3大会あり、これら大会の過去の実績に鑑み、来年度はこれらの申請を認めることにしている。こうした結果か平成17年3月末の選手登録者も6219名となり、昨年3月末の5478名をはるかにうまわり更に増加の傾向にある。なお前記「発展拡充計画」の実行発展に伴い、トーナメント本部の一委員会であった当委員会は、平成16年3月、ベテラン本部ベテラン委員会と改組され、その活動に拍車をかけることになった。当委員会はE大会の整備とともに、市町村あるいはテニスクラブ他諸団体が運営するベテラン諸大会をグレードF～H大会として公認する準備を進め既にポイントの作成も終り、その活動の基盤の推進に努力を行っている。また承認E大会は各協会1大会(北海道は2)となっているが希望があれば次年度より2～3大会とすること、および開催種目も6種目以上となっているが、参加者数不足の為結果的に6種目に達しなかったとしても、当分の間は4種目以上であれば可とすることにして、ベテラン選手の生涯スポーツとしての活躍と楽しみの場を広げることに配慮することにした。

4. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

主催者(財)日本体育協会の委託事業として第4回本大会を共同主催し、運営主管の福島県テニス協会の運営に協力した。

開 会 式 : 平成16年9月22日 16:30～19:30

(前夜祭)郡山市・ホテルハマツ 高円宮妃殿下ご来臨 出席者約1000人
 なおテニス競技会場の会津若松市との距離的關係上、日体協の同意を得て同日同時刻、会津若松市のワシントンホテルにおいてテニス競技独自の前夜祭を開催した。会津若松市長菅家一郎氏、佐藤敏夫JTA常務理事(盛田会長代理)他役員選手160名出席

期 日 : 平成16年9月23日～26日

会 場 : 会津総合運動公園テニスコート クレーコート 20面(他に会津ドーム4面)

開 始 式 : 平成16年9月23日 9:00～9:40 全員出席
 開始宣言 佐藤国三郎 ディレクター(ベテラン委員長)
 大会会長挨拶 佐藤敏夫JTA常務理事(盛田会長代理)

歓迎挨拶 高谷雄三 福島県テニス協会会長
 // 高石寛治 会津若松市教育長
 // 斉藤輝夫 会津若松市市議会副議長
 // 佐藤直子 大会シンボルメンバー
 競技説明 佐藤 敦 レフェリー（福島県協会理事長）
 司 会 戸川稔朗 アシスタントディレクター（福島県協会副理事長）

種 目：男子単35才以上,複45才以上,女子単複40才以上

参加資格：JTA選手登録者にして、各協会の推薦（推薦方法は任意）による男女単複各1名1組（主管の場合は2名2組）48ドローとする。辞退がでた場合はあらかじめ順位をつけて、複数参加を申し出た協会を対象にベテランJOPランキング順にワイルドカードとして割り当てる。ただし、同一県最大4名4組。

参加人数：男子単48名、複43組（86名）計134名

：女子単48名、複47組（94名）計142名 合計276名

不参加県2県（京都・佐賀） 参加率 97%

昨年は不参加県が7県あり参加率も87%であったので本年は主管福島県協会の努力により著しく改善された。

5. 国際ベテラン大会への選手派遣

(1) 国際ベテラン大会への選手派遣と参加（ベテラン委員会）

① I T F主催 年令別世界ベテラン大会 Aグループ大会

<団体戦> 平成16年5月3日～9日、トルコ・ANTALYA

男女共参加申込者なし。最近の国際情勢によるものと思われる。

<個人戦> 平成16年5月10日～16日 トルコ・ANTALYA

男子35、40才以上単 加藤全孝

② I T F主催 年令別世界ベテラン大会 Bグループ大会

<団体戦> 平成16年9月13日～19日、USA・PHILADELPHIA

1) 男子65才以上 (BRITANNIA CUP) 21ヵ国中 8位

石黒 修・藤原堅三・広瀬 均・藤井道雄

2) 男子70才以上 (JACK CRAWFORD CUP) 11ヵ国中 2位

宮城 淳・徳弘晴輝・宮地邦夫・森 成蹊

3) 女子60才以上 (ALICE MARBLE CUP) 14ヵ国中 13位

南井多恵子・鈴木正枝・徳弘知世香・小川加代子

4) 女子65才以上 (KITTY GODFREE CUP) 9ヵ国中 9位

林 良子・小林サヨ・井上文枝・鈴木美智子

5) 女子70才以上 (ALTHEA GIBSON CUP) 10ヵ国中 5位

重光千津子・村松敏子・山田久子・石井伸子

<個人戦> 平成16年9月20日～26日 USA・PHILADELPHIA

1) 男子55才以上 上田 滋

2) 男子60才以上 田中日出男・安達正純・神谷邦夫・出口正彦

3) 男子65才以上 石黒 修・藤原堅三・広瀬 均・藤井道雄・石井八洲男・生川芳久・坂上日出夫・秋野 修・栗田克彦・鈴木秀人・平沢敏之

4) 男子70才以上 宮城 淳・徳弘晴輝・宮地邦夫・森 成蹊・伊藤光郎・石川哲二・辻本 明・松堂 力

5) 女子55才以上 樋口五十鈴・辻ヶ堂恵美子・藤波佳子・高木孝子

6) 女子60才以上 南井多恵子・徳弘知世香・唐沢広子・野間富美子・湯沢 幸

7) 女子65才以上 井上文枝・鈴木美智子・柚木邦子

8) 女子70才以上 村松敏子・山田久子

成績：男子70才以上単 宮城 淳 準優勝

③ I T F公認アジアベテラン選手権大会（年令別・個人戦）

主 催：タイテニス協会

期 日 : 平成16年8月15日～22日
会 場 : タイ・パタヤビーチ
参加選手: 男単45才以上 廣岡孝通 (優勝)
男単40才以上 岩見 亮 (優勝)

④ATF公認アジア都市対抗国際ベテラン大会

主 催 : タイ・ベテランテニス協会
期 日 : 平成16年11月21日～27日
会 場 : タイ・プーケット島
種 目 : 男子複50, 55, 60, 65, 70以上各1組
女子複50, 55才以上各1組 計7組による団体戦
参加選手: 土屋善二 (キャプテン)・村上交周 (マネージャー)・川口温弘・尾田行令
・秋野 修・向井龍義・太田傀一・山本外喜夫・永松岩雄・浅海安義・渡辺
聡・葦沢寿美子・柳川幾美・福永真由美・原 百代 以上15名
成 績 : 参加10チーム中4位

⑤第18回北京国際元老网球大会

主 催 : 北京市网球協会 北京市元老网球協会、北京市国際体育交流中心
期 日 : 平成16年10月22日～30日
種 目 : 年令別男女単複 25種目・混合複 2種目
参加資格: JTAへの選手登録の有無を問わない自由参加、知人、友人、家族の参加も可とする。
参加選手: 佐藤国三郎 (団長)・土屋善二 (副団長)・村上交周 (マネージャー)・
小泉 茂・遠藤弘海・山口泰一・辻 敏夫・秋野 修・中村義久・小路康男
・浅川義基・小野良夫・松川 清・岸原節子・竹村繡子・久保田護・中村孝
三・中村日出子・早川慶子 以上19名
成 績 : 男単40才以上 優勝 小路康男
男単55才以上 優勝 村上交周
男複40才以上 優勝 遠藤弘海・小路康男
男複65才以上 優勝 土屋善二・秋野 修
女複65才以上 優勝 岸原節子・竹村繡子

6. 財団法人日本テニス協会、日本スポーツマスターズ特別委員会への出席

①スポーツマスターズ2004大会第1回連絡会議

期 日 : 平成16年5月27日
場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
出席者 : 佐藤国三郎委員、帆足佳子 (事務局)

②スポーツマスターズ2004大会第1回委員会

期 日 : 平成16年7月5日
場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
出席者 : 佐藤国三郎委員、帆足佳子 (事務局)

③スポーツマスターズ2004大会プログラム作成打合せ会議

期 日 : 平成16年7月7日
場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
出席者 : 佐藤国三郎委員、帆足佳子 (事務局)

④スポーツマスターズ2004大会組合せ抽選会

期 日 : 平成16年8月6日
場 所 : 岸記念体育館 402号会議室
出席者 : 佐藤国三郎委員、佐藤 敦大会レフェリー、
戸川稔朗大会アシスタントディレクター、他JTAベテラン常任委員7名

⑤スポーツマスターズ2004大会第2回連絡会議

期 日 : 平成16年9月7日

- 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
出席者 : 佐藤国三郎委員、帆足佳子 (事務局)
- ⑥スポーツマスターズ2004大会終了報告会
期 日 : 平成17年3月17日
場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
出席者 : 佐藤国三郎委員、帆足佳子 (事務局)

ジャパンオープン本部 ジャパンオープン委員会 (委員長:有沢 三治)

1. AIG ジャパンオープンテニス2004の開催

今年の大会はシャラポバ人気に助けられたとは云え、集客目標の5万人を10%も越える55,875人の史上最多の観客動員数を記録することが出来ました。

予選を含めた9日間の内晴天は僅か4日、そして1日は台風と言うトーナメント史上最悪の天候であったがスタッフの死に物狂いの努力で見事乗り切りました。特に予選の日曜日、月曜日は湘南、早稲田と外部のコートで試合を消化しましたが その際のオフィシャル、ボールパーソン等の移動、物品の持ち運びで輸送手段の不備にも拘わらず競技本部は気持ちよく対応してくれましたので 厳しい日程を何とかこなしました。大会には連日の悪天候の中ではありましたが多くの観客が来てくれましたので無事盛会裡に終了する事が出来ました。

男子は全体的に波乱の多い展開でした。有力選手が早いラウンドで姿を消し、第1シードのR・ヒューイトも準決勝で敗れ、決勝はJ・ノバク対T・デントの伏兵対決となり、ノバク選手(CZE)初優勝。又日本の鈴木貴男が3回戦進出、本村もヒューイトとフルセットの激闘などの活躍は大きく大会を盛り上げました。女子は昨年の覇者である人気選手のシャラポバ選手 (RUS) 優勝、2連勝を飾りました。大会期間中はシャラポバの一挙手一投足にメディアが注目されるなど大いに大会を盛り上げてくれました。

(1)観客サービス

- ①観客エンターテイメント関連では折角計画したイベントが雨の為かなりが中止になり事前の努力が報いられない部分もありましたが、臨機応変の対応で多くのイベントをこなしました。アンケート調査でも観客はイベントを楽しみにして来ている事が明らかであり、努力が着実に実って来ています。UA 航空の的当てゲーム、チアガールによるダンス、サービスリターン等が注目を集めており今後も続けて行く計画です。
- ②飲食関係での関心の深さもアンケートで浮き彫りになりました。大会での飲食は更に改善する必要があるでしょう。1週間の営業であり人気のあるレストラン等を集めるのは難しいと云えますが、ここでは何とか工夫が必要です。来年は出来ればこの部分で先任者を置き、設置場所、飲食の種類等を改善します。特に雨天対策を考えれば2階の有効使用を検討するがベストかと考えます。
- ③お祭り広場のブースでのショッピング等を観客は楽しみにしていましたが、今回は雨の為中止が多く残念がっておりました、観客は大会会場でのショッピングを楽しみにしていますので、そろそろJTA独自の大会記念品を企画する時期が来たとも云えるでしょう。
- ④来年は1-4番コートでのプレーを充実させ、ここで観戦する事がテニスの醍醐味である事を強調し、この為には観客席の設置、スコアボードの整備し、見易い環境を作る計画です。又この点を事前に大いにPRした上、グランドチケットの販売方法等も検討する予定です。
- ⑤ボランティアによります観客サービスも見事で 今回雨のためインホメーション等での活躍は大会運営大きく貢献してくれました。

(2)スポンサーサービス

- ①今回スポンサーサービスの一環として新たにマーキーを設置、スポンサーの接客にご利用いただく事で約700万円を投資しましたが、台風で撤去し使用出来なかった事は誠に残念でした。マーキーを急遽コロシウム内の展示場に移し開催、好評を得た事は幸いでした。
- ②台風の為女子シングルの決勝がTV中継から外されたことは極めて残念でしたが、週

を通じて NHK や他民放局でのニュースの取り上げが凄くここでもシャラポバ選手の人氣が効を奏しました。今大会での広告効果は推定 1 8 億円でスポンサーも満足であったと思われます。

(3)選手サービス

- ①ATP/WTA からは大会運営のスムーズさを賞賛された。特にドクターの金森先生の対応の素早さは感謝されました。ホテルについてもサービスの良さに感心をしていました。

(4)総括

- ①来年は WTA のルールの変更でシャラポバの来日は期待出来ません。今回集まった 5・5 万人の観客の内どれだけの数を呼び戻せるかが挑戦です。勿論シャラポバの代わる人氣選手を呼ぶ事が最も大切ですが、集まった観客を、テニス以外でどれだけ楽しめるかが鍵になると思いますので更に充実をさせて行きたい。運営面でも雨天における室内コート確保など天候にも考慮し万全を期して行く所存です。

普及指導本部 普及委員会 (委員長: 中嶋 康博)

1. 「テニスの日」イベントの実施

- ①テニス普及のため「テニスの日」イベントを 9 月 23 日を中心に行った。
2004 年のキャッチフレーズ「テニスコミュニケーション」
- ②個別イベントは全国 356 ヶ所で実施、参加者数は約 3 万人。
- ③共同イベントは 47 都道府県 (昨年は 15 都道府県) 全部で行われた。
平均参加人数は一会場あたり 245 名、計 11,515 名参加。
- ④有明メインイベント
松岡修造・伊達公子プロ以下、大勢のプロが協力し、16 面コート+コロシウムを使用し、5,500 人参加した。内容は、昼のメインイベント、カモンキッズ、キッズテニス (子供のみ・親子) テニスメーカーイベント、聴覚障害者テニス、車いすテニス、ジュニアクリニック、一般当日受付レッスン、ストリングサービス、不要テニスボール・ラケットの回収など、様々なイベントが行われた。

2. キッズテニスの積極的な普及

幼稚園・小学校マナーキッズプロジェクトの実験教室を 3 ヶ所で行った。

- ①東京都中央区
平成 16 年 7 月 24 日 中央区スポーツセンター 80 名参加
- ②静岡県静岡市
平成 16 年 8 月 30 日 静岡市東部体育館 80 名参加
- ③東京都江東区
平成 17 年 3 月 13 日 深川北スポーツセンター 80 名参加
- ④2005 事業の記者発表を行った。
平成 17 年 2 月 15 日 岸記念体育会館 (盛田会長・渡邊専務理事出席)

3. 公的施設利用拡大の推進 (プロモーション委員会と共同)

公営コートの利用時間の拡大、公立学校の週末・夜間利用の拡大を図るべき活動を行った。また、幼稚園 3 年、小学校 6 年、中学校 3 年というように 12 年間テニスを続けられるように、中学校問題を取り上げ、モデルを作るため 2 中学校とコンタクトを取り、コーチを派遣した。

4. 中学校テニス活動に対する支援 (プロモーション委員会と共同)

中学校でテニスとぎれてしまうことを懸念して、私立中学校とコンタクトを取り、2 ヶ所でスタートした。

5. 「シニアブームを本気で興す」プロジェクトに参加

日本テニス事業協会に協力して中高年のテニス普及活動を開始した。

普及指導本部 指導者委員会 (委員長: 正木 茂)

1. 文部科学大臣認定事業公認指導者資格付与

公認指導者資格検定会を下記の通り開催した。

- ① C級コーチ：前期・大阪・2004/12/22～25 参加者：35名
後期・東京・2005/2/21～24 参加者：33名
- ② C級教師：前期・大阪・2004/12/22～25 参加者：7名
後期・東京・2005/2/21～25 参加者：7名
- ③ C級教師（専門学校）：東京・2005/2/15～18 参加者：66名
- ④ B・Cスポーツ指導員：北海道、宮城、山形、長野、岐阜、滋賀、大阪、兵庫、山口、香川の各県で認定事業を行った。

2. コーチーズカンファレンスの開催

- ①2005年3月21・22日に国立スポーツ科学センターにおいて269名の参加者で開催した。

3. 公認スポーツ指導員養成講習会の開催

- ① 各都道府県において普及員の養成講習会を行った。
- ② 女子テニス連盟を対象に普及員の要請講習会を行った。

4. 公認スポーツ指導者講師全国研修会の開催

- ①2004年12月19・20日に神奈川県・たちばな学苑において日本体育協会助成事業の研修会を開催した。なお、参加者は51名であった。

5. 財団法人日本体育協会の公式会議に出席

- ①12月17日に東京・岸記念会館にて開催された日本体育協会の全国連絡会に出席した。

6. その他

- ① 公認専門学校の担当教諭との会議を行った。
- ② 文部科学大臣認定資格の日本体育協会への移行問題に関して、日本体育協会・日本プロテニス協会との打合せを行った。
- ③ テニス指導教本の作成を行った。

普及指導・強化本部供管 クラブJTA推進委員会（委員長：橋本 有史）

1. クラブJTA会員の登録管理および会員の増強

クラブJTAはジュニア育成および強化に係わる資金の確保のため広く会員を募集し、その会員から会費の形で広く浄財の提供をお願いする組織である。

本年は引き続き地域協会のご協力のもと会員の増強を図ると共に、ホームページのリニューアルにあわせ、医事委員会が主催する「テニスメディカルセミナー」CD-ROMの贈呈を特典としてキャンペーンを行った。結果、平成17年3月31日における会員数は822名となり、前年比6.7パーセントの増加となった。

また、本年よりクラブJTAの認知を主目的とし「クラブJTAサポート大会」（大会会場でのクラブJTA認知活動および募金）を地域にて開催を企画しており東北テニス協会（青森県テニス協会）、九州テニス協会にて実際に開催され、成果を上げることが出来た。一昨年度より会費収入の30%を地域協会に還元しているが、本年も719万5000円の会費収入に対して215万8500円の地域還元を行っている。

普及指導・強化本部供管 競技者指導育成推進委員（委員長：飯田 藍）

一貫指導の理念の下に地域・都道府県での強化合宿を実施。ナショナルコーチ1名、ナショナルフィジカルトレーナー1名を各地域に派遣し、地域強化コーチとの連携で、14歳以下のジュニアを対象にしたテーマとして「ダブルスはオールランドプレーヤーを育む」為の技術の伝達とその為に必要なフットドリルの向上を目的としたフィジカルトレーニングを指導する。

1. 地域ジュニア育成合宿&強化コーチ会議

場所	北海道(札幌)	2005年2月12-13日	宮の沢屋内競技場
	東北(宮城)	2004年10月16-17日	ウエルサンピアみやぎ泉
	北信越(富山)	2004年11月13-14日	富山市岩瀬スポーツ公園
	関東(千葉)	2004年11月6-7日	アポロコーストテニスクラブ
	東海(静岡)	2004年12月25-26日	浜松市花川公園コート
	関西(兵庫)	2004年11月6-7日	アオノリゾート
	四国(徳島)	2005年1月29-30日	鳴門総合運動公園コート

中国(広島) 2004年10月9-10日 びんご運動公園コート
九州(福岡) 2004年10月9-10日 博多の森テニス競技場

2. ブロックジュニア合宿

場所 東北(岩手) 2005年2月5-6日 サンビレッジ紫波
北信越(福井) 2004年11月6-7日 鯖江市広域西番スポーツセンター
東海(静岡) 2004年8月3-4日 浜松市花川公園テニスコート
関西(大阪) 2004年12月4-5日 大阪産業大学生駒キャンパス
四国(香川) 2004年10月23-24日 白鳥中央公園・とらまる公園
中国(山口) 2004年10月30-31日 山口市維新公園コート
九州(宮崎) 2005年1月15-16日 県総合運動公園コート
☆ブロック合宿はそれぞれの県の強化対策に添って実施した。

3. 強化指導指針Ⅱを技術部会で策定する。(別冊を各県に配布)

4. 全国講師研修会をスポーツ科学委員会・強化委員会・指導者委員会で開催する。

各都道府県の強化に携わる指導者資格を有する者と地域ジュニア育成に関わる指導者への伝達講習会を行う。

5. 日韓ジュニア対抗戦(14歳以下)

韓国と日本のジュニア選手・地域ジュニア委員が参加、ジュニア対抗戦は湘南スポーツセンターで行い、最終日に東レPP0の決勝戦を韓国選手と共に観戦、沢松プロの「世界への夢と目標」をどのように持つことが大切かの話をお聴き、トップ選手を真のあたりにしての実践研修をした。

6. その他

トップへの道の「ダブルスはオールランドプレイヤーを育むの」DVDの作成は次年度に持ち越された。

強化本部 強化委員会(委員長:藤井 道雄)

1. デビスカップへの参加

- ①デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループⅠ 2回戦 日本 対 インド
期日:4月9日~11日 会場:韃靼テニスセンター
監督:神和住 純 スーパーバイザー:ボブ・ブレット
トレーナー:山下 且義 ストリンガー:小川 由紀子 マネージャー:田島 孝彦
選手:鈴木 貴男/本村 剛一/トーマス 嶋田/寺地 貴弘
結果:3勝2敗で勝利、ワールドグループプレーオフ進出が決定
- ②デビスカップ ワールドグループプレーオフ チリ 対 日本
期日:9月24日~26日 会場:チリ・ビニャデルマル
監督:神和住 純 スーパーバイザー:ボブ・ブレット
ドクター:奥平 修三/赤池 敦 トレーナー:山下 且義
ストリンガー:小川由起子 マネージャー:田島 孝彦
選手:鈴木 貴男/本村 剛一/寺地 貴弘/トーマス 嶋田
結果:0勝5敗で敗退、来年度のアジア/オセアニアゾーン・グループⅠ残留が決定
- ③デビスカップ アジア/オセアニアゾーン・グループⅠ 1回戦
チャイニーズ台北 対 日本
期日:3月4日~6日 会場:チャイニーズ台北・桃園縣
監督:竹内 映二 スーパーバイザー:ボブ・ブレット コーチ:増田 健太郎
ドクター:奥平 修三 トレーナー:山下 且義
ストリンガー:富岡 信人 マネージャー:田島 孝彦
選手:鈴木 貴男/本村 剛一/トーマス 嶋田/添田 豪/(候補)松井 俊英
結果:2勝3敗で敗退、2回戦プレーオフ出場が決定

2. フェドカップへの参加

- ①フェドカップ ワールドグループ1回戦 アルゼンチン 対 日本

期 日：4月24日・25日 会場：アルゼンチン・ブエノスアイレス
監 督：小浦 武志 コーチ：高田 充 / 駒田 政史
トレーナー：村木 良博 ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：杉山 愛 / 小畑 沙織 / 浅越 しのぶ / 森上 亜希子
結 果：1勝4敗で敗退、ワールドグループプレーオフ進出が決定

②ワールドグループプレーオフ ブルガリア 対 日本

期 日：7月10日・11日 会場：ブルガリア・プロヴディフ
監 督：小浦 武志 コーチ：高田 充 / 駒田 政史
トレーナー：村木 良博 ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：浅越しのぶ / 小畑 沙織 / 吉田 友佳 / 藤原 里華
結 果：3勝2敗で勝利、来年度のワールドグループ2部残留が決定

3. 第28回オリンピック競技大会(2004/アテネ)への参加

期 日：8月15日～22日 会 場：ギリシャ・アテネ
監 督：植田 実 トレーナー：村木 良博
コーチ：竹内 映二 / 杉山 芙沙子 / 谷川 美雄
選 手：杉山 愛 / 浅越 しのぶ / 小畑 沙織 / 森上 亜希子
結 果：女子シングルス 杉山：ベスト8 浅越：1R 小畑：1R 森上：2R
女子ダブルス 杉山・浅越：4位

4. ナショナルジュニア海外遠征

<団体戦>

①ジュニアデビスカップ アジア/オセアニア予選

期 日：4月21日～5月2日 会 場：スリランカ
監 督：村上 武資 選 手：錦織 圭 / 喜多 文明 / 会田 翔
結 果：3位(世界大会進出)

②ジュニアフェドカップ アジア/オセアニア予選

期 日：4月27日～5月9日 会 場：タイ・バンコク
監 督：岩本 功 選 手：福井 恵実 / 森田 あゆみ / 伊藤 絵美子
結 果：3位(世界大会進出)

③ワールドジュニア アジア/オセアニア予選

期 日：5月10日～15日 会 場：オーストラリア・メルボルン
監 督：(男子)右近 憲三 / (女子)山中 夏雄
選 手：(男子)ロンギ 正幸 / 松井 良賢 / 渡辺 輝史
(女子)森本 美香 / 奈良 くるみ / 秋田 史帆
結 果：(男子)4位(予選敗退) / (女子)3位(世界大会進出)

④ワールドジュニア 世界大会

期 日：8月2日～7日 会 場：チェコ・プロステヨフ
監 督：山中 夏雄 選 手：奈良 くるみ / 秋田 史帆 / 小城 千葉美
結 果：9位

⑤ジュニアデビスカップ 世界大会

期 日：9月27日～10月2日 会 場：スペイン・バルセロナ
監 督：村上 武資 選 手：錦織 圭 / 喜多 文明 / 会田 翔
結 果：11位

③ジュニアフェドカップ 世界大会

期 日：9月27日～10月2日 会 場：スペイン・バルセロナ
監 督：岩本 功 選 手：森田 あゆみ / 伊藤 絵美子 / 瀬間 詠里花
結 果：16位(途中棄権)

<個人戦>

①U18ヨーロッパ遠征

期 日：(男子)5月18日～7月1日 / (女子)5月19日～7月4日
遠征先：フランス、イギリス
コーチ：村上 武資 / 田村 伸也

選手：(男子)藤井 貴信 / (女子)瀬間 友里加

②U16 ヨーロッパ遠征

期 日：5月22日～7月19日

遠征先：ハンガリー、モロッコ、オランダ、ドイツ、アルバ

コーチ：米沢 徹 選手：錦織 圭 / 富田 玄輝 / 喜多 文明

③トヨタジュニア遠征 (女子)

期 日：6月21日～7月21日

遠征先：フィジー、ニュージーランド、オーストラリア

コーチ：米沢 そのえ

選手：伊藤 絵美子 / 瀬間 詠里花 / 森田 あゆみ / 加藤 茉弥

④トヨタジュニア遠征 (男子)

期 日：6月24日～7月19日 遠征先：インドネシア、タイ

コーチ：岩本 功

選手：会田 翔 / 杉田 祐一 / 山本 健尊 / 酒井 正利

⑤U14 ヨーロッパ遠征

期 日：6月30日～8月2日 (女子のみ引き続きワールドジュニア世界大会に出場)

遠征先：フランス、オランダ、ドイツ

コーチ：右近 憲三 / 江口 良和 / 山中 夏雄

選手：松尾 友貴 / ロンギ正幸 / 奈良くるみ / 秋田 史帆 / 小城千菜美

⑥全米オープンジュニア遠征

期 日：8月25日～9月9日 遠征先：アメリカ

コーチ：田村 伸也 選手：藤井 貴信

⑧U14 韓国遠征

期 日：11月7日～15日 派遣先：韓国

コーチ：田村 伸也

選手：渡辺 輝史 / 只木 信彰 / 斉藤 秀

伊従 智子 / 山外 涼月 / 山下 ちなみ / 石津 幸恵

⑨U18 アジア遠征

期 日：11月21日～12月5日 派遣先：マレーシア

コーチ：村上 武資 選手：藤井 貴信 / 杉田 祐一

⑩U14 アメリカ遠征

期 日：11月25日～12月24日 派遣先：アメリカ

コーチ：櫻井 準人・山中 夏雄

選手：ロンギ 正幸 / 鈴木 昂 / 奈良 くるみ / 秋田 史帆

⑨全豪オープンジュニア遠征

期 日：1月3日～29日 派遣先：オーストラリア

コーチ：田村 伸也 選手：藤井 貴信 / 杉田 祐一 / 森田 あゆみ

⑩U16 南米遠征

期 日：1月23日～3月22日 派遣先：ペルー、ボリヴィア、チリ、

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジル

コーチ：本井 満 / 兼城 悦子 選手：加藤 茉弥 / 伊藤 絵美子

⑪U16 オーストラリア遠征

期 日：2月20日～3月13日 派遣先：オーストラリア

コーチ：藤井 道雄 選手：松尾 友貴 / 片山 翔 / 秋田 史帆 / 山本 愛

5. デビスカップ強化合宿

①デビスカップ アジア / オセアニアゾーン・グループ I 2回戦 日本 対 インド

・第1次強化合宿 (期日：3月29日～4月2日、会場：荏原湘南スポーツセンター)

・第2次強化合宿 (期日：4月5日～8日、会場：韃テニスセンター)

②ボブ・ブレット 福岡デ杯ミニキャンプ

(期日：5月14日～20日 会場：福岡グローバルアリーナ)

コーチ：ボブ・ブレット / 白石 正三 プロジェクトマネージャー：塚越 亘

選手：本村 剛一／寺地 貴弘／宮崎 靖雄／宮尾 祥慈／宮崎 雅俊／畠中 将人
本村 浩二／石井 大裕／芳野 聡／坂井 利彰／近藤 大生
竹内 研人／伊藤 潤／大野 貴央／不田 涼子

③デビスカップ ワールドグループプレーオフ チリ 対 日本

・第1次強化合宿（期日：9月10日～16日、会場：ブラジル・サンパウロ）

・第2次強化合宿（期日：9月17日～23日、会場：チリ・ビニャデルマル）

④デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループI 1回戦

チャイニーズ台北 対 日本

・第1次強化合宿（期日：2月24日～26日、会場：荏原湘南スポーツセンター）

・第2次強化合宿（期日：2月27日～3月3日、会場：チャイニーズ台北・桃園縣）

6. フェドカップ強化合宿

①フェドカップ ワールドグループ1回戦 アルゼンチン 対 日本 強化合宿

（期日：4月19日～23日、会場：アルゼンチン・ブエノスアイレス）

②ワールドグループプレーオフ ブルガリア 対 日本 強化合宿

（期日：7月5日～9日、会場：ブルガリア・プロヴディフ）

7. ユニバーシアード強化合宿等

①ユニバーシアード第1次候補選手 練習会

（期日：4月24日、会場：(男子)昭和の森テニスクラブ、(女子)長良川テニスプラザ）

スタッフ：森井 大治／谷澤 英彦／細木 祐子

選手：(男子)宮尾 祥慈／畠中 将人／金山 敦思／比嘉 明人／成瀬 廣亮

軸丸 真志

(女子)道慶 知子／矢部 由希子／水野 衣里子／伊勢 ミツ子／前川 綾香

松井 小麦／伊藤 和沙／川床 萌／大西 香／野沢 絵梨

②ユニバーシアード最終候補選手 合同合宿

（期日：2月14日～16日、会場：荏原湘南スポーツセンター）

スタッフ：森井 大治／谷澤 英彦／細木 祐子

選手：(男子)乾 祥一郎／末田 英／比嘉 明人／江戸 寛／酒井 祐樹

軸丸 真志／岩橋 祐介／畠中 将人／宮尾 祥慈／宮崎 靖雄

(女子)愛甲 霞／伊勢 ミツ子／波形 純理／前川 綾香／道慶 知子

水野 衣里子／矢部 由希子

8. ジュニア強化合宿

①修造チャレンジ トップジュニアキャンプ Cチーム

（期日：4月5日～8日、会場：東山公園テニスセンター）

スタッフ：松岡 修造／竹内 映二／岩本 功／佐藤 雅弘

佐藤 雅幸／田中 伸明

選手：鈴木 俊哉／大野 貴央／伊藤 潤／飯野 翔太／井上 悠冴／ロンギ 正幸

渡辺 輝史／松尾 友貴／只木 信彰／関口 周一／鈴木 昂／内山 靖崇

②女子ジュニア合宿（期日：4月28日～5月3日、会場：ミナミテニスクラブ）

コーチ：兼城 悦子／米沢 そのえ

選手：森本 美香／奈良 くるみ／秋田 史帆／坂東 未来／栗林 千聡／岩崎 舞

③女子ジュニア合宿（期日：6月16日～5月3日、会場：サニーインむかい）

コーチ：兼城 悦子／米沢 そのえ トレーナー：田島 孝彦

選手：森田 あゆみ／伊藤 絵美子／加藤 茉弥／瀬間 詠里花

田中 真梨／前澤 かおる

④修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

（期日：11月9日～14日、会場：荏原湘南スポーツセンター）

スタッフ：ボブ・ブレット／松岡 修造／他修造チャレンジスタッフ

選手：三橋 淳／飯野 翔太／ロンギ 正幸／松尾 友貴／関口 周一／鈴木 昂

内山 靖崇／藤井 貴信／竹内 研人／会田 翔

④男子ジュニア合宿（期日：11月20日・21日、有明テニスの森公園）

- コーチ：右近 憲三
選手：鈴木 昂／内山 靖崇／遠藤 豪／佐藤 貴大／関口 周一／浜脇 康人
- ⑤女子ジュニア合宿（期日：12月17日～22日、会場：サニーインむかい）
コーチ：田村 伸也／兼城 悦子／溝口 美貴／米沢 そのえ
トレーナー：田島 孝彦
選手：加藤 茉弥／伊藤 絵美子／山本 愛／大澤 愛加／伊従 智子／山外 涼月
山下 ちなみ／石津 幸恵／松尾 実季／井上 雅／田島 杏奈
- ⑥修造チャレンジ トップジュニアキャンプ（期日：2月16日～18日）
コーチ：松岡 修造／他 修造チャレンジスタッフ
選手：関口 周一／鈴木 昂／内山 靖崇／杉田 祐一／松尾 友貴／鈴木 俊哉
竹内 研人／藤井 貴信
- ⑦ワールドジュニア アジア／オセアニア予選 選手選考合宿
コーチ：（男子）右近 憲三／（女子）山中 夏雄
選手：（男子）遠藤 豪／佐藤 貴大／関口 周一／浜脇 康人／只木 信彰
（女子）山外 涼月／山下 ちなみ／石津 幸恵／松尾 実季／高山 千尋

9. ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施

4月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

10. オリンピック強化指定選手の認定

JOCに対し、下記の男子7選手、女子8選手の計15選手を申請し、認定を得た。

男子：鈴木 貴男／本村 剛一／トーマス 嶋田／寺地 貴弘／加藤 純／

岩渕 聡／小野田 倫久

女子：杉山 愛／浅越しのぶ／小畑 沙織／藤原 里華／森上亜希子／吉田友佳／

宮城 ナナ／尾崎真衣加

強化本部 ジュニア委員会（委員長：藤井 道雄）

1. JTA主催全国ジュニア大会の運営協力並びにジュニア強化選手発掘・育成のための視察

4月のトヨタジュニアを始め、全国ジュニア大会の運営協力ならびに視察を行なった。

2. ジュニア委員会の制度の見直しと設定

①平成16年度ジュニア選手表彰ランキングの作成と、ランキング上位選手に表彰楯の送付を行なった。

②ジュニア大会選考基準の見直しを行ない、「ジュニア大会規程」を策定した。

3. ジュニア世界大会予選または本戦の視察

ジュニアデビスカップ アジア／オセアニア予選他の視察を行なった。

4. 日中小学生テニス精英対抗戦大会派遣

全国小学生テニス選手権大会において優秀な成績を収めた選手のうち男女4名を選考し、中国北京市に派遣して中国のトップの小学生選手との交流試合を行なった

期日：8月27日～31日 派遣先：中国

団長：藤井 道雄 副団長：佐藤 国三郎 マネージャー：松本 昭夫

同行者：村上 交周

選手：内山 靖崇／斉藤 秀／喜多 元明／近藤 大基

石津 幸恵／岡本 佳奈／佐久間 絢子／多田 奈央

5. 日韓テニス トップジュニアキャンプの開催

文部科学省の「スポーツ交流推進事業」の委嘱を受け、以下の通り事業を実施した。

・事業名：日韓テニス トップジュニアキャンプ

・実施期間：2月1日～7日

・事業の内容：世界で活躍することを目標としている両国のトップジュニア選手及びその指導者が交流試合などを通じて交流し、隣国同士の相互理解を深め競技力の向上に努めた。また同時期に行われる国際大会「東レ パン・パシフィックオープン」の試合観戦や練習見学、澤松奈生子氏のセミナーなどを通じて「世界のテニス」を学んだ。

強化本部 スポーツ科学委員会（委員長：梅林 薫）

1. JTA 強化指定選手のスポーツ科学的サポート

JTA 強化指定選手においては、JISS(国立スポーツ科学センター)および大阪市中央体育館健康体力相談室において、体力およびメンタルの分析そしてトレーニング指導を行った。また、筑波大学の実験体育館において、サービスおよびグラウンド・ストローク動作のバイオメカニクスの分析を行い、技術（フォーム）の指導を行った。

2. 地域ジュニア選手に対しての体力・メンタル・栄養面の現状把握とその指導

地域ジュニア選手に対しては、各地域での合宿時に、テニスフィールドテストを実施し、体力を把握するとともに、体力トレーニング指導も合わせて行った。また、メンタル面のチェックと指導も行った。また栄養面については、小冊子を配布し、日々の食事についての指導を行った。（ヨネックス財団助成金対象事業）

3. 競技力向上のための体力トレーニング指導におけるトレーニング CD の作成

ジュニア選手およびシニア選手対象に「テニスのためのコンディショニング ー効果的な体力トレーニングとプログラムデザイナー」の CD および冊子を作成し、体力トレーニング指導をより効果のあるものにするため、啓蒙活動を行った。

4. 全豪オープン・デ杯の戦術分析

2005 年メルボルンで開催された全豪オープン（平成 17 年 1 月 19 日から 1 月 31 日）について、日本のジュニア選手および世界のトップ選手の動向について、分析を行った。対象となる試合についてチェックし、戦術的分析を行った。

また 2005 年 3 月 4 日から 6 日の 3 日間、台湾で開催されたデビスカップ(日本対台湾戦)において、科学委員 2 名が、日本チームに帯同し、VTR カメラを用いて、試合撮影を行い、監督・コーチに対して、得られた映像や分析データの即時フィードバックによる科学的サポートを行った。

5. テニス選手の技能および戦術に関する研究

2004 年度に開催された国内大会として、全日本ジュニアテニス選手権大会、全国小学生テニス選手権大会、AIG オープン、全日本テニス選手権大会等のゲーム・戦術分析を行い、主に、強化指定選手の戦術（サーブ・レシーブからの攻撃）、コート上での動き、メンタル面およびコンディショニング面からの分析と評価を行った。

6. トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立

昨年に引き続き、地域協会と連携して、地域トレーニングセンター設置に基づくスポーツ科学サポートの実施体制を確立することを目的として、各地域のスポーツ科学に関する施設・情報等の調査を行い、その実態の把握を行った。今後、さらに地域のスポーツ科学サポートを充実させていく上でも、地域のハード面およびソフト面の調査および情報の共有を積極的に行い、中央と地域とがスポーツ科学に関する情報をお互いに伝達できるシステムの開発をさらに推進していくことが重要であると認識できた。

専務理事直轄 ドーピングコントロール委員会（委員長：助川 卓行）

1. ドーピング検査の実施

1) 全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成 16 年 1 月 18 日(木)の 1 日

場所 : 有明コロシアム(東京都江東区)

対象 : 男子選手 3 名 女子選手 3 名 合計 6 名

検査要員 : 検査員 7 名 助手 4 名 合計 6 名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費 : スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を得て、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果 : 本大会におけるドーピング検査は 7 回目となり、選手達も協力的で特に問題もなく、円滑に実施することが出来た。

トップ選手の中には、何回も検査を経験した選手も多くなってき

たが、ドーピング検査を受ける選手に対しては、特に検査完了迄の時間を活用して、アンチ・ドーピングについて個別に解説・話し合いを行った。

地道ではあるがアンチ・ドーピング啓蒙の良い機会になっている。また、ドーピング検査の回を重ねる毎に、選手・コーチ等の意識も変わってきている。以前は、検査の対象になったことに不満を言う選手もいたが、最近は無くなった。

大会前から大会中も、服用中の薬に禁止薬物が含まれないかとの問い合わせが多くなってきている。

更に大会期間外にも問い合わせが時々あり、日頃の選手生活の中にも、アンチ・ドーピングへの関心が高まって来ている傾向が見られる。

2) 全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間 : 平成16年8月8日(日)

場所 : 靱テニスセンター(大阪市西区)

検査要員 : 検査員 6名 助手 7名 合計 13名

検査結果 : 検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費 : スポーツ振興くじ(TOTO)からの助成を得て、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果 : 今回の検査対象選手は、日程と予算の関係により14歳以下男子ダブルスに参加した選手から抽選により6名を対象とした。

低年齢であり全員が初めての検査であったので、父兄・コーチに同伴して頂き、検査完了までの時間を活用し、諸資料によりアンチ・ドーピングにつき懇談形式で優しく解説を行った。

特に、父兄・コーチの方々にアンチ・ドーピングについての認識を高めて頂いたように感じたが、検査終了後アンチ・ドーピング諸資料を持ち帰って頂き、友達の選手にもこの経験を話して頂くようお願いしたので、啓蒙の成果が期待できるものと思われる。

また、本大会は、いずれ世界に羽ばたく日本のトップ選手となるジュニア選手が集まっているので、この会場でのドーピング検査の実施は、多くの選手・父兄・コーチ等指導者に関心を持って頂く良い機会となり、この面からもアンチ・ドーピング啓蒙の効果があったものとする。

その他 : 「ドーピングコントロールエスコート」の任務と手順についての手引き書を改正し、初めてその任務に就く方にも円滑に遂行して頂けるよう整備した。

3) 第59回国民体育大会秋期大会におけるドーピング・コントロール実施協力

実施期間 : 平成16年10月27日(水)の1日

場所 : 青木町公園総合運動場庭球場(川口市)

派遣検査員 : 助川卓行委員長・服部雅彦副委員長・谷潤子委員の3名

実施内容 : 決勝に進出した選手に対し、ドーピング検査を実施した。

検査に先立ち、エスコートの4名に対し、任務と手順につき説明した。なお、この4名の方々にはあらかじめ、アンチ・ドーピングに関する基本的な資料とエスコートの手引き書を送付し事前の学習もお願いしていたので、円滑に業務を遂行することが出来た。また、ドーピングコントロールオフィサーの研修生6名に対して実務的な研修を行った。

4) 検査体制を維持充実するため、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)のメディカルオフィサー・テクニカルオフィサー養成講習会に、委員の推薦と支援を行った。

<1> JADA ドーピング・コントロール・オフィサー養成講習会への受講推薦と受講完了者

平成16年度 第2回養成講習会

開催日 : 平成16年9月26日(日)

場所 : 国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者 : 吉崎 堅一

平成16年度 第3回養成講習会

開催日 : 平成16年11月28日(日)

場所 : 国立スポーツ科学センター 大研修室

受講者 : 白井 孝昭

<2> 平成16年度末 JADA 認定 DCO

メディカルオフィサー : 助川 卓行、別府 諸兄、及能 茂道、
石井 庄次、奥平 修三 計5名

テクニカルオフィサー : 服部 雅彦、宮城 操、高橋 和子、
松村佳永子、岡 知珠、 計5名

DOC 受講完了者 : 菊池 哲郎、諸川 玄、谷 潤子、三谷 玄弥、
吉崎 堅一、白井 孝昭、 計6名

2. アンチ・ドーピング対策

① サプリメント対応

社会全般に、ブームと言っても良いほど「サプリメント」が摂取される状態になっているが、サプリメントには、ドーピング禁止薬物が含まれている恐れのあるものがあり、特に外国産のものには成分が明確に記載されていないものもあり要注意である。

世界のスポーツ界では、より効果を求めて効き目があると云われる製品を使用する者があり、これがドーピング検査の結果「陽性」と判定され、選手生命を絶たれた者すら現れている。

我がテニス界に於いても、知識不十分なまま、成分不明なサプリメントを使用する者が出現する可能性があるため、先ずサプリメントの使用実態を把握し、指導方針等を検討するため、全日本ジュニアテニス選手権大会において選手(家族を含む)を対象にアンケート調査を実施した。

関西テニス協会のご協力を得て、全国9地域における予選時にアンケート調査を行った結果、524名もの選手から調査票を回収することが出来た。

取り敢えず集計は完了したが、分析検討は平成17年度においてプロジェクトチームを編成し実施することとした。

② 選手等からの照会対応

ナショナル選手やコーチ・選手の家族からの服用中の薬品についての照会や使用可能薬について等諸照会に対応した。

3. アンチ・ドーピングの啓蒙

(1) JTA ニュースの記事

JTA ニュース最新号に「アンチ・ドーピング最近の動向」の記事を掲載した。

(2) テニス界でのドーピング違反例について

奥平修三委員がテニス界でのドーピング違反例を集めた結果のレポートを取り敢えず委員会内とオリンピック監督等に送った。

(3) 世界アンチ・ドーピング規程等について

平成16年6月に、最新の世界アンチ・ドーピング規程と新しく作成された「JADA Anti-Doping Guide Book 2004」が、(財)日本オリンピック委員会及び(財)日本アンチ・ドーピング機構から配付された。

この最新資料を配付し、新しい体制作りの準備に取りかかるため、ドーピング判定委員会とドーピングコントロール委員会委員全員に5種類の資料

を配付した。

(4) 日本アンチ・ドーピング規程等について

JADAは、平成16年7月に「日本アンチ・ドーピング規程」を設定した。それに伴う諸対応を早急に行う必要があるため、取り敢えず、ドーピング判定委員会及びドーピングコントロール委員会の全委員に、7月16日に開催された日本アンチ・ドーピング規程説明会の内容を報告すると共に資料を配付した。更に、選手への周知徹底を図るため、平成17年2月17日(木)に「アンチ・ドーピング合同会議」を開催し、専務理事・選手委員会・ナショナルチーム・事務局の代表者が集まり、具体的な対応各役割等を決定した。なお、「日本アンチ・ドーピング規程」の受諾に伴い、「コートの子」にその内容を反映させる必要が生じたが、「コートの子」の印刷日程の関係もあり取り敢えず現行規程の末尾に掲載されている「注」を修正のうえ掲載した。

専務理事直轄 ドーピング判定委員会 (委員長：渡邊康二)

1. JADA 規程受諾

- ①2003年3月に世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が制定したアンチ・ドーピング規程を、2004年7月日本アンチ・ドーピング機構(JADA)も同様のものを制定。JOCもこの規程を批准したため、各競技団体にもこれを受け入れない場合は加盟団体としての資格が停止される旨の通達を受けた。
- ②これに対し、JTAは紙上ドーピング委員会を開催し、これを受け入れる旨を決議。2005年1月の専務理事・本部長会議にJADA規程を受諾する決議を行った。
- ③これに伴い、JOCから支援を受ける選手(JOC強化指定選手)は、自分の居所3ヶ月間分を提出し、いつでも検査を受けられる状況にしておくことが義務付けられた

2. ドーピング検査陽性反応者発生時の対応

ドーピングコントロール委員会が実施するドーピング検査において、陽性者が出なかったため、判定会議は実施せず。

専務理事直轄 危機管理委員会 (委員長：内山 勝)

1. 有事における危機管理対策の実施

平成16年度は危機管理委員会が対応をしなければならない大きな事例は起こらなかったことから、主立った活動はありませんでした。

以上